

平成 2 8 年 度

**教育に関する事務の管理及び執行状況
の点検・評価に関する報告書
(平成 2 7 年度対象)**



平成 2 8 年 1 1 月

帯 広 市 教 育 委 員 会

目 次

1	点検及び評価の基本的な考え方・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	（1）趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	（2）対象・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	（3）方法・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	（4）学識経験者の知見の活用・・・・・・・・	1
2	点検及び評価の結果・・・・・・・・・・・・・・・・	3
	（1）次代を担う人づくり・・・・・・・・	3
	（2）ともに学びきずなを育む地域づくり・・・・・・・・	11
	（3）基本目標を実現するための基盤づくり・・・・・・・・	15
3	教育に関する学識経験者の意見・・・・・・・・	25
	参考資料・・・・・・・・	27
	資料1 平成27年度教育委員会の活動状況・・・・・・・・	28
	資料2 平成27年度教育行政執行方針・・・・・・・・	32
	資料3 平成27年度予算決算・・・・・・・・	37
	資料4 平成27年度における主な取組み一覧・・・・・・・・	39
	資料5 成果指標の推移・・・・・・・・	45
	資料6 課題及び今後の方向性に対する平成27年度の取組み・・・	50

1 点検及び評価の基本的な考え方

(1) 趣旨

効果的な教育行政の推進をはかるとともに、市民への説明責任を果たすため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、教育の取組みについて点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、あわせて市民に公表するものです。

(2) 対象

「帯広市教育基本計画」の体系にしたがい、平成27年度に実施した取組みを対象として、点検及び評価を実施しました。

なお、「帯広市教育基本計画」においては、福祉や子育てなど他の分野と幅広く協力しながら取組みをすすめることとしていることから、教育委員会の取組みに加え、関係部課等の取組みについても、点検及び評価の対象としています。

(3) 方法

点検及び評価は、第六期帯広市総合計画の政策・施策評価と整合をはかりつつ、「帯広市教育基本計画」の「個別目標」及び「基本方向」ごとに行いました。具体的には、成果指標の達成状況や平成27年度における主な取組み内容などを踏まえながら、平成27年度における取組みの成果と、課題及び今後の方向性の2つの観点から、点検及び評価を行いました。

(4) 学識経験者の知見の活用

学識経験者からの点検及び評価に関する意見や助言をいただき、教育委員会が点検及び評価を行うに当たって客観性を確保するとともに、今後の取組みに向けた活用をはかります。

参考1 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抜粋)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

図1 帯広市教育基本計画体系図

基本目標	個別目標	展開方策
1 次代を担う人づくり	1-1 知識・技能の習得	(1) 子どもの学力・学習意欲を高める教育の推進 (2) 個人や社会のニーズに応じた学習活動の推進 (3) 職業に関する教育・学習活動の推進 (4) 高度情報化に対応した教育・学習活動の推進
	1-2 豊かな心の育成	(1) 子どもの社会性の育成 (2) 豊かな情操の育成と生きがいづくり
	1-3 健やかな体づくり	(1) 健やかな体を育むスポーツ活動等の推進 (2) 食育の推進と学校給食の充実
	1-4 人間を尊重し自然と共生する人づくり	(1) 人権・福祉・男女共同参画に関する教育・学習活動の推進 (2) グローバル化に対応した教育・学習活動の推進 (3) 環境に関する教育・学習活動の推進
2 とともに学びきずなを育む地域づくり	2-1 ふるさとの理解の促進	(1) 子どものふるさと教育の推進 (2) 地域に関する学習活動の推進
	2-2 きずなづくり・まちづくり	(1) まちづくりへの参画を促進する教育・学習活動の推進 (2) にぎわいや交流を促進する文化・スポーツの振興

	基本方向	展開方策
基本目標を実現するための基盤づくり	1 学校・家庭・地域の連携	(1) 開かれた学校づくり (2) 家庭教育への支援 (3) 家庭や地域による教育支援の推進
	2 教育を支える人材の育成	(1) 教員の人間力・指導力の向上 (2) 地域の人材の発掘・育成・活用
	3 教育環境の充実	(1) 学校教育の環境整備 (2) 社会教育の環境整備 (3) 保育・体験活動の環境整備
	4 教育機会の確保	(1) 就学・進学への支援 (2) 健やかな発達の支援
	5 よりよい教育のためのしくみづくり	(1) 魅力ある学校づくりの推進 (2) 学校教育のしくみの工夫改善 (3) 社会教育施設の利用の促進 (4) 地域の実情に応じた教育行政の推進

2 点検及び評価の結果

(1) 次代を担う人づくり

個別目標1－1	知識・技能の習得
市民が生涯にわたり自己を高めるとともに、時代の変化に適応し、自立して生きることができるよう、必要な知識・技能を習得することができる教育・学習活動をすすめます。	

○ 点検及び評価の結果

項 目	内 容
取組みの成果	(1)「子どもの学力・学習意欲を高める教育の推進」については、標準学力検査等で課題を明確にし、少人数指導等により基礎学力の定着に向けた授業改善が一定程度進んだこと、家庭と連携した家庭学習の取組みの効果が現れてきたことにより、標準学力検査の目標基準到達観点数が前年に比べ4観点増加し、目標値を達成しました。 (2)「個人や社会のニーズに応じた学習活動の推進」については、市民大学講座において受講環境を改善したほか、各施設において特色を生かした多彩な内容による講座を開催したため、講座等の参加者数は目標値を上回りました。 (3)「職業に関する教育・学習活動の推進」については、帯広南商業高校において、2学年時に全生徒が参加するインターンシップ事業や、就職希望者に対する模擬面接、意識高揚をはかる進路指導を実施し、企業訪問等による情報収集を進めたことにより、就職率100%を達成しています。また、検定の3種目以上1級取得率も、基礎からの指導を継続し、目標値を上回りました。 (4)「高度情報化に対応した教育・学習活動の推進」については、「クラウド型サーバーシステム」の導入により、各小中学校が適宜アクセスし活用することで、教育研究所作成の教材等を指導に生かすなど、効果的な運用ができる環境を整えました。
課題及び今後の方向性	(1)「子どもの学力・学習意欲を高める教育の推進」については、児童生徒の課題を把握し解決していくため、より実効性のある教材や資料を提供し、学校・家庭・地域が一体となって学習・生活習慣の改善を継続して行う必要があります。 (2)「個人や社会のニーズに応じた学習活動の推進」については、多様化する学習ニーズや、社会情勢の変化を的確に捉え、受講しやすい環境づくりや魅力ある講座等の企画運営に取り組みます。 (3)「職業に関する教育・学習活動の推進」については、帯広南商業高校において、今後の経済情勢の変化等を捉え、引き続き企業ニーズを把握し、豊かな社会性と教養を身に付けた社会に貢献できる人材の育成に努めます。 (4)「高度情報化に対応した教育・学習活動の推進」については、「クラウド型サーバーシステム」を、各小中学校でより活用しやすいよう、教育効果の高い教材等の作成に取り組みます。

○ 参考1：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H27実績値	H31 目標値
		H27目標値	
標準学力検査の目標基準到達観点数（観点）	26	38 38	42
帯広市教育委員会が開催する講座等の参加者数（人）	22,590	37,542 23,000	23,000
帯広南商業高等学校の就職率（％）	100.0	100.0 100.0	100.0
帯広南商業高等学校における検定の3種目以上1級取得率（％）	46.7	73.5 61.0	75.0

○ 参考2：主な取組みの内容

◆ 市民大学講座

15歳以上の市民を対象に、帯広・十勝の地域特性を知る講座や地域づくりに役立つ講座、趣味・教養に関する講座等を年間を通じて開講し、生涯にわたって学んでいただく機会を提供しています。

平成27年度は、「帯広・十勝の魅力を再発見」をテーマに、地元の魅力を学ぶ講座として風土や歴史学、フードバレーとかち学など、56講座を実施し、延べ3,442人が参加しました。



「帯広・十勝歴史講座」の様子

◆ 帯広南商業高校での就職指導

3年生に対しては、6月に面接の基本指導、9月に模擬面接指導を行い、就職解禁日に備えて準備を進めるほか、受験先に勤務する卒業生から情報を収集し、面接本番に向けた準備を行います。

2年生は、平成27年度52職場でインターンシップを行い、自分のキャリア形成に役立てています。それに先がけ、教員は市内の企業と調整を重ねて準備を進めるほか、外部講師によるマナー指導「ビジネス基礎講座」を実施し、当日に備えます。

1年生は、職場調べや卒業生へのインタビューを通して、職業への知識を増やし、自己の進路意識を高めます。

日頃から、教員は企業や職業に対する生徒の興味関心が高まるよう指導しています。



模擬面接の様子

個別目標1-2	豊かな心の育成
子どもたちが、他の人々と協調しながら、自らを律し、社会においてよりよく生きる力を身につけるとともに、市民が生涯にわたりゆとりやうるおいを実感して生活することができるよう、豊かな心の育成に取り組みます。	

○ 点検及び評価の結果

項 目	内 容
取組みの成果	(1)「子どもの社会性の育成」については、小中学校に教育相談員を、帯広南商業高校にスクールカウンセラーを配置し、児童生徒の悩み等にきめ細かい相談体制をとったほか、いじめや非行の未然防止等のため、関係機関と連携を図り、「帯広市小中学生いじめ・非行防止サミット」等を開催したほか、「帯広市児童生徒のいじめ・非行防止5つの誓い」をクリアファイルとして配布・啓発し、子どもたちの意識を高めることができました。 (2)「豊かな情操の育成と生きがいづくり」については、小中学校において学校図書ボランティア等が中心となって行っている読み聞かせや朝読書、学校図書館の土曜開放などの取組みにより、学校図書館の児童生徒1人当たりの貸出冊数は前年度より減少したものの、目標値を上回りました。また、「帯広市小中学生のための札幌コンサート」や帯広市民オペラ「こうもり」を開催するなど、良質な芸術・文化の鑑賞機会を提供し、身近に芸術・文化に親しめる環境づくりに取り組みました。
課題及び今後の方向性	(1)「子どもの社会性の育成」については、家庭や児童生徒の心の内面の複雑化等、原因の多様化により、学校復帰まで至らないケースも多く、不登校生徒の復帰率は、目標値を下回っているものの、前年度と比べて数値は改善しました。不登校児童生徒の復帰に向けて、引き続き教育相談員の専門性の向上を図り、適応指導教室での受入れや指導を継続し、一人ひとりに応じた個別的教育相談体制の強化や保護者への相談体制の充実に努めます。子どもの居場所づくり参加児童数については、一部の地域でボランティアスタッフの担い手が不足していることにより、前年度に比べ429人増加したものの、目標値を下回りました。子どもの居場所づくり事業は、大部分をボランティアスタッフの協力で運営しているため、学校とボランティア団体の連携を深めスムーズな事業運営を図る必要があることから、市民に対するPR活動としてプラザまつり等のイベントにおいて事業への理解とボランティア参加を呼びかけるため事業周知を進めます。 (2)「豊かな情操の育成と生きがいづくり」については、小中学校の学校図書館において、引き続き国の定める標準冊数の達成を目指しながら魅力ある蔵書整備を進めていくほか、運営に係る担い手の確保や専門性の向上を図り、学校図書館の活用促進に努めます。また、鑑賞事業の入場者数は4年連続増加しているものの目標値を下回りました。芸術・文化に関する魅力や開催情報が幅広く市民に届くよう、各メディアの活用に加えて、各コミュニティ等を通じた情報発信手法を工夫するなどして、創造性や感性を刺激する芸術に触れる機会を提供します。

○ 参考１：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H27 実績値	H31 目標値
		H27 目標値	
不登校生徒の復帰率（％）	30.8	34.4 55.0	65.0
子どもの居場所づくり参加児童数（人）	7,575	22,834 28,800	31,100
小学校図書館の児童１人当たり貸出冊数（冊）	9.1	16.2 10.7	11.8
中学校図書館の生徒１人当たり貸出冊数（冊）	1.6	3.7 2.0	2.4
鑑賞事業の入場者数（人）	34,098	24,706 38,000	38,000

※貸出冊数は年間の冊数

○ 参考２：主な取組みの内容

◆ 教育相談体制の充実

学校において生徒の身近な存在として、不安や悩みなどの相談を受ける「こころの教育相談員」、家庭訪問を中心に不登校や登校をしぶり気味の児童生徒へ働きかけを行う「家庭訪問相談員」、友人関係・親子関係など様々な人的な要因と、子どもや家庭が置かれている環境の両面に働きかけを行い、関係機関との連携を図りながら対応を行う「スクールソーシャルワーカー」等を活用しながら、生徒や保護者の悩み等の個別的教育相談にあたり、事案の解決を図りました。

また、月に１回定例会議を開催し、情報交流・研修を行うなど、相談員の相互連携を図りました。



定例会議の様子

◆ 「学校図書館担当者スキルアップ研修会」の開催

学校図書館の運営に携わる教職員やボランティアの知識習得及び技術向上を支援し、学校図書館の更なる活性化を図るため、学校図書館担当者スキルアップ研修会を開催しました。

平成２７年度は１５名の学校図書館担当者が参加し、学校図書館で活用できる魅力あるPOP作りを学び技術の向上を図ったほか、高等学校学校司書との交流により司書業務に対する理解を深めました。



研修会の様子

個別目標1－3	健やかな体づくり
市民が生涯にわたり心身ともに健やかな生活を送ることができるよう、健やかな体づくりに取り組みます。	

○ 点検及び評価の結果

項 目	内 容
取組みの成果	(1)「健やかな体を育むスポーツ活動等の推進」については、明治北海道十勝オーバルでのスケート大会やフットバレーとかちマラソンを中心とした各種大会の開催数の増加や、総合型地域スポーツクラブが開催する講座等が頻りに実施されたことにより、スポーツ大会、スポーツ教室・講習会の参加者数は目標値を上回りました。児童のむし歯予防を目的としたフッ化物洗口の取組みについては、道の普及事業推進指定校において6年にわたり検証的に実施し、その効果や有意性が認められました。 (2)「食育の推進と学校給食の充実」については、小中学校において食に関する教育指導計画を作成し指導を行っているほか、食育推進委員会において作成した「帯広らしい食育プログラム」及び「食育レシピ集」の小中学校児童生徒への配布、食育指導専門員の増員により、「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得するための食育を推進しました。学校給食においては、新学校給食センターが稼動し施設設備が整ったことにより、和え物やサラダなど野菜を使用したメニューが1品増えました。関係部署や地元JA、地元生産者との連携により、端境期における冷凍野菜などの地場産野菜の導入に努めました。
課題及び今後の方向性	(1)「健やかな体を育むスポーツ活動等の推進」については、スポーツ少年団登録団員数が依然として微減傾向にあることから、学校等を通じて少年団の情報を各家庭に提供していきます。学校開放事業のうち体育館開放は飽和状態となっており、利用状態を把握し学校と協力しながら、さらに利用調整を図ります。また、総合型地域スポーツクラブの設置数は、1か所増えたものの、目標値を下回りました。引き続き他のクラブとの情報交換や帯広市スポーツフェスティバルへの参画を促すなどの体制づくりを進めます。フッ化物洗口の取組みについては、継続的にモニタリングしながら、効果や有意性を高める今後のあり方を検討していきます。 (2)「食育の推進と学校給食の充実」については、「早寝早起き朝ごはん」運動の一層の推進を図り、児童生徒や保護者への働きかけを進めます。また、児童生徒の食に関する調査研究を継続することにより、啓発資料の作成、講演会の開催等を進めます。食育指導専門員と栄養教諭が連携し、より多くの学級で給食指導及び食育出前授業を実施し、「帯広らしい食育プログラム」作成に継続して取り組み、児童生徒への食に関する指導の一層の充実を図ります。また、学校給食での野菜の年間使用量が前年度に比べ37ポイントの増量となった一方で、地場産野菜の使用量は16ポイント増にとどまったため、学校給食における地場産野菜の導入率は、前年度と比較し9.8ポイント下がり、目標を下回りました。今後も関係部署と連携し、引き続き地場産野菜の導入拡大に取り組みます。

○ 参考１：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H27 実績値	H31 目標値
		H27 目標値	
スポーツ大会、スポーツ教室・講習会の参加者数（人）	35,677	96,705 87,000	87,000
総合型地域スポーツクラブの設置数（か所）	2	5 6	8
学校給食における地場産野菜の導入率（％）	55.7	53.7 68.5	70.0

○ 参考２：主な取組みの内容

◆ 明治北海道十勝オーバル利用のスケート大会

全十勝児童スケート大会は、毎年 1 月に開催される大会で、平成 28 年 1 月の大会には十勝管内の小学生の選手・保護者を合わせて 800 名以上の参加がありました。この大会には、オーバルでの大会が初めての子どもたちや、選手として上位を狙う子どもたちなどが参加し、自己ベストを目指して懸命な滑りをします。

スポーツ少年団や学校のスケートリンクで練習を重ねた子どもたちが、オーバルという最高の舞台で滑る大会として、大きな目標の大会となっています。参加人数から見ても十勝帯広のスケート文化を感じる大会です。



元気に滑走する選手たち

◆ 新学校給食センター

平成 27 年 4 月、新たな給食センターが稼動しました。学校給食衛生管理基準に基づき最新の設備や機器を導入し、衛生管理を徹底しているほか、卵と乳の食物アレルギー除去食を提供するための調理室も整備されています。設備が整ったことで、サラダや和え物の調理が可能となり、また、センター内に炊飯室を整備したことで、混ぜご飯なども作ることができ、献立のバリエーションが増えました。

市内全小・中学校 40 校分の約 1 万 4 千食を作っており、食材は地元産を中心としています。キャラクターのオビリーとともに、子どもたちに喜ばれる給食づくりに日々取り組んでいます。



帯広市学校給食センター

個別目標1－4	人間を尊重し自然と共生する人づくり
誰もが人間として尊重され、共生することができる社会づくりや、人と自然が共生する持続可能な社会づくりに資するため、市民が必要な知識などを習得することができる教育・学習活動をすすめます。	

○ 点検及び評価の結果

項 目	内 容
取組みの成果	(1)「人権・福祉・男女共同参画に関する教育・学習活動の推進」については、ユニバーサルデザイン（UD）に関する講座等への参加者数の増加を図るため、認知症サポーター養成講座との合同開催や児童保育センターでの開催に加え、新たに帯広畜産大学と連携するなど、多様な参加機会を提供したことから、目標値を上回りました。そのほか、男女共同参画社会の実現に向けて「おびひろ男女共同参画プラン」を推進し、講座・フォーラムの開催、情報誌の発行により意識啓発等を行いました。 (2)「グローバル化に対応した教育・学習活動の推進」については、森の交流館・十勝を活動拠点に、幅広い年齢層の市民が多く外国人と交流できる「世界のともだち」などの事業において内容や広報活動を充実した結果、国際理解推進事業・国際交流事業の参加者数が増加し、目標値を上回りました。また、外国語指導講師を全小中学校に派遣し、小学校外国語活動及び中学校外国語科の指導の充実、児童生徒の確かな学力の向上に努めました。帯広南商業高校では、専任の英語指導助手の配置やマディソン市への生徒派遣により、生の英語に触れる機会を提供し、コミュニケーション能力の向上及び国際理解を深めました。 (3)「環境に関する教育・学習活動の推進」については、環境にやさしい活動実践校の取組促進に向けて学校訪問のほか、校長会議等を通して、制度内容、導入の意義や効果への学校の理解が進んだ結果、平成27年度に新たに4校認定し、目標値を達成しました。また、小中学校等に対して、市ホームページなどで帯広らしい環境教育プログラム集や環境教育関連情報を発信し、環境教育の推進を図りました。
課題及び今後の方向性	(1)「人権・福祉・男女共同参画に関する教育・学習活動の推進」については、ユニバーサルデザイン（UD）に対する市民の意識向上のため、子どもたちをはじめ、若い世代に周知する機会の拡大を検討するなど、意識啓発に努めます。男女共同参画においては、性別による固定的な役割分担意識や社会慣行の解消のため、今後も関係団体等と連携して男女平等意識の定着・浸透を図っていきます。 (2)「グローバル化に対応した教育・学習活動の推進」については、平成32年度から実施される新学習指導要領で、小学校高学年の外国語が教科化されることから、エリア・ファミリーを考慮して小中学校が連携した外国語活動の指導を行い、児童生徒の外国語によるコミュニケーション能力の向上を図ります。また、長期休業中に小学生を対象に行っている「Obihiro サマーイングリッシュ・ウィンターイングリッシュ」を引き続き開催し、児童の外国語への興味・関心を高めていきます。 (3)「環境に関する教育・学習活動の推進」については、プログラム集を充実し、学校や社会教育施設等が連携した帯広らしい環境教育を引き続き推進します。

○ 参考１：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H27 実績値	H31 目標値
		H27 目標値	
UDに関する講座等への参加者数（人）	234 (H17-19 平均)	294 284	370
国際理解推進事業・国際交流事業の参加者数（人）	8,465 (H17-19 平均)	9,732 9,010	9,350
環境にやさしい活動実践校数（校）	10	32 32	41

○ 参考２：主な取組みの内容

◆ 外国語指導講師の派遣

小学校では、高学年（第５・６年生）において、外国語活動の時間におけるコミュニケーション活動の充実を図っています。中学年以下においては、他教科や領域等における外国人講師との直接的な触れ合いを通して、外国語に慣れ親しむ、異文化に触れるなど体験を重ねています。

中学校では、ネイティブスピーカーから直接英語を学ぶことにより、学力の向上を図るとともに、英語に親しむ、異文化に触れるなど国際化社会に即応した国際感覚の豊かな人材を育成しています。

平成 27 年度は 5 名の講師を、1 校当たり小学校に約 61 時間、中学校に約 41 時間派遣しました。



小学校での活動の様子

◆ 環境にやさしい活動実践校

「帯広市環境にやさしい活動実践校」は、学校でできる環境にやさしい活動について、取組内容や実施目標などの仕組みをつくり、みんなで取り組んでいる学校を、帯広市及び帯広市教育委員会が認定する制度です。

子どもたちが環境にやさしい活動を実践することで環境保全に寄与するとともに、この取組みを通して自分たちの行動と地域・地球環境の関係を考え、各家庭や地域においても環境保全のために実践する態度を身につけることを目的としています。

平成 27 年度に新たに 4 校を認定し、計 32 校で環境にやさしい活動に取り組んでいます。



小学校での美化活動の様子



認定授与式の様子

(2) ともに学びきずなを育む地域づくり

個別目標2-1	ふるさとの理解の促進
市民がふるさとの風土に学び、自己を確立するとともに、ふるさとの誇りや愛着などを高めることができるよう、ふるさとの理解や再発見を促進する教育・学習活動をすすめます。	

○ 点検及び評価の結果

項 目	内 容
取組みの成果	(1)「子どものふるさと教育の推進」については、「郷土体験学習」、「自然体験学習」、「ふるさと学習農園」の体験活動を通して、児童生徒が郷土を愛し思いやりの心を育む教育活動を推進しました。また、百年記念館では、身近な野生動物エゾリスの暮らしなどを紹介する出前講座を学校などを対象に実施し、子どもたちがふるさとの自然について学ぶ機会を設けました。 (2)「地域に関する学習活動の推進」については、地域の問題・生活課題など地域に根ざした特色あるコミュニティ講座等を開催したことにより、地域について学ぶ講座等への参加者数は、目標値を上回りました。また、アイヌ民族文化情報センター（リウカ）の運営や、アイヌ生活文化展の開催、理解促進指導用教材の配布・貸出しを行い、児童生徒や市民がアイヌ民族の歴史・文化に関する理解を深めるよう取り組みました。
課題及び今後の方向性	(1)「子どものふるさと教育の推進」については、小中学校で行っている体験活動等において、講師の不足や受入れ先の選定等の課題により、プログラムの見直しや学校独自の取組みを多くするなどの検討を進めます。また、百年記念館では、教材の更新や新たなプログラムづくりに取り組みます。 (2)「地域に関する学習活動の推進」については、市民大学講座や百年記念館の博物館講座、図書館の郷土資料展示コーナーでの展示などを引き続き行い、地域の歴史や文化を学び、理解を深める機会を提供します。また、新規の受講者を呼び込むため、学習活動のより効果的な周知を行います。アイヌ民族の歴史や文化を学習する機会を拡大するとともに、アイヌの伝統的生活空間（イオル）の整備や講座の実施などを進め、一層の理解促進に向けて取り組みます。

○ 参考1：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H27 実績値	H31 目標値
		H27 目標値	
地域について学ぶ講座等への参加者数（人）	4,053	5,355	4,000
		4,000	

○ 参考2：主な取組みの内容

◆ 郷土体験学習

ふるさと帯広市の環境・自然・農業等に直接触れ、体験的に学ぶ教育プログラムを充実させることにより、郷土と自然を愛する、心豊かな児童の育成を図ることを目的に、小学校4年生では郷土体験学習を実施しています。平成27年度の主な行き先は、くりりんセンター、百年記念館等です。

児童は、帯広市の豊かな自然を体験したり、帯広市ならではの施設を見学したりすることを通して、ふるさとの素晴らしさを全身で味わいました。



くりりんセンター見学の様子

◆ 野生動物の出前講座

百年記念館では、主に小学校向けの出前講座として、ミニ百年記念館「エゾリスの暮らし」や「アカゲラの暮らし」を開催しています。平成27年度は10校12学級の児童が学びました。

職員が教室へ出向き、はく製などの実物資料をボックスから出しながら授業を進めます。エゾリスやアカゲラについてのクイズを解きながら、身近な野生動物であるエゾリスとアカゲラの生態や、それにかかわる生物についての理解を深めます。

野生動物を通して、身の回りの環境について興味・関心を持ち、ふるさとの自然について学ぶことを目的としています。



出前授業 ミニ百年記念館
「エゾリスの暮らし」

個別目標2-2	きずなづくり・まちづくり
地域におけるきずなづくりや、市民主体のまちづくりに資するため、まちづくりへの市民参画やまちのにぎわい・交流を促進する学習・文化・スポーツ活動をすすめます。	

○ 点検及び評価の結果

項 目	内 容
取組みの成果	(1)「まちづくりへの参画を促進する教育・学習活動の推進」については、青少年リーダー養成事業参加者数は、多くの子どもたちが興味をもって参加できるようプログラムに工夫を加えたほか、小学校からも積極的に参加を呼びかけたこと、以前参加した子どもたちの評判が良かったことが人づてに伝わったことにより、目標値を上回っています。また、図書館で行う「語り手育成講習会」、「学校図書館クリニック」などの講座受講者が、その技術を生かして図書館や小学校などで活躍しています。百年記念館でも、ボランティア養成講座の受講者が、習得した知識・技術を生かして常設展示室での展示解説やレコードコンサートを開催しており、このような定着した活動が事業展開の大きな支えとなっているなど、学習成果の活用事例数は、目標値を上回りました。 (2)「にぎわいや交流を促進する文化・スポーツの振興」については、おびひろ市民芸術祭や帯広市民オペラ「こうもり」公演を開催し、市民主体の芸術文化活動を支援し、多くの市民が身近に芸術文化に親しめる環境づくりに取り組みました。発表・活動の場への参加団体数は、実行委員会と連携し広く参加を促したことで、前年に比べ4団体増加し、目標値を上回りました。また、各種スポーツ大会の観客数は日本クラブユースサッカー大会、フットバレーとかちマラソン大会など全国・全道規模の大会の継続開催により、目標値を上回りました。スポーツ合宿団体数は、明治北海道十勝オーバルのナショナルトレーニングセンター指定に伴うスケート合宿が1順調であるほか、各種スポーツ団体や実業団チーム等の合宿の受入れを、地域を挙げて取り組んでいることから、目標値を上回りました。
課題及び今後の方向性	(1)「まちづくりへの参画を促進する教育・学習活動の推進」については、青少年体験活動などの各種事業を今後も継続していくためには、青少年育成団体スタッフの担い手の育成・発掘が課題であり、活動内容を積極的に市民周知し、学校、PTA、地域などの協力を得ながら人材確保に努めます。また、百年記念館など社会教育施設では、知識技術の向上・継承を図りながら、活動できる人員の増員を図ります。また、知識・技術の専門性を活かした活動の場を今後も提供していきます。 (2)「にぎわいや交流を促進する文化・スポーツの振興」については、文化活動について構成員の高齢化・小規模化等が進んでおり、芸術文化に関わる活動団体の活動の継続・活性化のため、文化団体等が意見・情報交換する機会の提供を検討します。

○ 参考1：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H27 実績値	H31 目標値
		H27 目標値	
青少年リーダー養成事業参加者数（人）	208	338 240	260
学習成果の活用事例数（件）	1 (H20)	9 6	10
発表・活動の場への参加団体数（団体）	56	91 61	65
各種スポーツ大会の観客数（万人）	16.0	20.9 20.8	20.8
スポーツ合宿団体数（団体）	150 (H20)	222 200	200

○ 参考2：主な取組みの内容

◆ 図書館ボランティア養成講座

図書館職員などが講師を務める「語り手育成講習会」は平成14年から開催しており、受講生たちは図書館でのおはなし会や学校において、読書ボランティアとして活動しています。

また、「学校図書館クリニック」は平成27年度は2校実施し、学校図書館内の書棚の整理、展示、レイアウト変更などについての講座を受講したボランティアが、その成果を自校の図書館で発揮しています。



読書ボランティアを支援する「語り手育成講習会」

◆ スポーツ大会・合宿の誘致

市のスポーツ施設を活用しながら、スポーツ大会・合宿の誘致をすすめており、プロバスケットボールチームのレバンガ北海道のほか、平成27年度には法政大学野球部が初めて合宿を行いました。また、全国中学校サッカー大会をはじめ50を超える全国・全道大会が開催され、市民との交流の機会を設ける合宿団体・大会もあり、競技を通じてスポーツの楽しさを体感できる機会となっています。

次年度以降の継続的な合宿を誘致することや、新たな合宿・大会を誘致するため、国内競技団体や実業団などを訪問し、誘致活動を行いました。



プロスポーツチーム帯広合宿

(3) 基本目標を実現するための基盤づくり

基本方向1	学校・家庭・地域の連携
学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たし、相互に協力しながら、社会を挙げて教育を充実することができるよう、学校・家庭・地域の連携をすすめます。	

○ 点検及び評価の結果

項 目	内 容
取組みの成果	(1)「開かれた学校づくり」については、全小中学校で学校評議員を委嘱し、学校運営に関して意見を求めたり、行事に招請したりするなど、学校評議員制度を活用し開かれた学校づくりを図りました。また、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の研修会に指導主事が出席し、学校評議員へ情報提供を行いました。そのほかにも、地域住民が行うスポーツ・文化活動のために、体育館などの施設を開放しました。 (2)「家庭教育への支援」については、子育て支援センターで実施している子育て講座の開催回数を増やしたことなどから、子ども1人当たりの子育て支援センター等の利用回数は、目標値を上回りました。また、家庭教育学級では、子どもの健全な成長発達や親自身の成長に役立つ学習を行い、家庭の持つ教育力を高めています。そのほか、動物園の「親子で挑戦！動物園のミステリークイズ」や百年記念館の親子陶芸教室など、親子での学習機会を提供しました。 (3)「家庭や地域による教育支援の推進」については、「こども学校応援地域基金プロジェクト」により、全小中学校で組織されている「学校支援地域本部」をはじめとする様々な団体のボランティア同士がつながり、子どもを地域ぐるみで応援する取組みを進めました。なお、学校支援ボランティアを活用した学校数は、平成25年度より全小中学校で活用されており、目標値を上回っています。
課題及び今後の方向性	(1)「開かれた学校づくり」については、今後も指導主事が学校運営協議会（コミュニティ・スクール）に関する研修会に参加し、最新の情報を学校評議員に提供するとともに、新任学校評議員研修会や学校評議員だよりの内容を充実させ、各小中学校の評議員の交流や情報交換の機会を設けていきます。なお、研修会は新任だけに限らず、現任の学校評議員や指導主事も参加することにより、開かれた学校づくりを一層図ります。 (2)「家庭教育への支援」については、子どもの年齢に合わせた子育てのアドバイスなどの情報を配信する子育てメール通信の利用率が前年に比べ0.5ポイント増加したものの、受信規制の解除による迷惑メール受信を懸念し、利用を希望しない保護者が多いことから目標値を下回りました。子育てに不安や孤立感を抱く親が増加していることから、関係機関と連携しながら地域全体で子育て家庭を支えていきます。 (3)「家庭や地域による教育支援の推進」については、学校支援地域本部のコーディネーターやボランティアの人材確保に努め、ボランティア同士のつながりを広げながら、各種団体と活動の情報交流を行い、活動内容の充実に努めていきます。

○ 参考１：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H27 実績値	H31 目標値
		H27 目標値	
子ども１人当たりの子育て支援センター等の利用回数（回）	10.2	15.9 11.4	12.0
子育てメール通信の利用率（％）	23.8 (H20)	41.4 46.8	60.0
学校支援ボランティアを活用した学校数（校）	2	40 24	40

○ 参考２：主な取組みの内容

◆ 子育て支援センターの講座

就学前の子どもがいる保護者を対象に、子育てや子育て支援に関する知識を得ることを目的に、子育て講座を開催しました。

保健師による発達・病気についての講座、栄養士による食事・栄養についての講座のほか、先輩ママやボランティア、子育て支援担当職員による子育てに関する様々な内容の講座を、平成 27 年度は 8 か所で 224 回行い、参加者同士が交流しながら、楽しく学びました。



子育て支援センターすずらん「わらべうた講座」

◆ こども学校応援地域基金プロジェクト

帯広市では、平成 27 年度から「こども学校応援地域基金プロジェクト」を立ち上げ、子どもたちのために地域で活動しているボランティア団体同士の、横のつながりを深めるための取組みを始めました。

また、地域で子どものために活動しているボランティア団体等に対する、財政面からの本格的な支援や、活動を応援してくださる方からの寄附の受付けを目的とした、「こども学校応援地域基金」の制度化に向けた取組みを始めました。



ボランティア同士のつながりを深める「こども応援！みらいカフェ」の様子

基本方向2	教育を支える人材の育成
専門性や豊かな人間性などを備えた、教育を支える人材を確保するため、教員や地域の指導者などの育成に取り組みます。	

○ 点検及び評価の結果

項 目	内 容
取組みの成果	(1)「教員の人間力・指導力の向上」については、公開研究会や研修講座などへの積極的な参加を促したこと、教育研究所による長期休業期間中の研修講座内容を充実したこと、教員に対する研修機会の周知徹底により、教職員 1 人当たりの研修受講回数は前年に比べ 0.2 回増加し、目標値を上回りました。各学校への学校指導訪問において、管理職や教員に対し、学校全体で学びのルールを統一したり、家庭学習のきまりの作成、ノート指導の統一などに取り組み、学校力と教師の指導力が向上するよう、指導・助言しています。 (2)「地域の人材の発掘・育成・活用」については、学習指導者登録制度において、指導者の学習成果を地域に還元するとともに、市民の学習活動を支援してきました。また、高齢化により活動を終了した文化団体がある中、新たに活動を開始した団体や、ホームページに掲載していない団体に積極的に PR した結果、ホームページで芸術・文化活動を紹介する文化団体数は、目標値を上回りました。
課題及び今後の方向性	(1)「教員の人間力・指導力の向上」については、学校教育における成果は教員の力量や人間性などに負うところが大きく、専門知識のほか豊かな人間性や社会性などの資質が必要であることから、ミドルリーダーの育成にも引き続き取り組むほか、クラウド型サーバーシステムにより、教育研究所の研究内容や作成教材を各校において効果的に活用し、教員一人ひとりの指導力の向上に努めます。 (2)「地域の人材の発掘・育成・活用」については、教育、文化・スポーツなどの様々な分野で活躍している地域の指導者の登録者数が前年に比べ 4 人増加したものの、目標値を下回りました。既登録者の高齢化や固定化が解消されず、全体として登録指導者数が伸び悩んでいる状況にあります。多様化、高度化する学習ニーズに応えていくため、指導者等の育成につながる講座等の実施や、周知方法の改善などについて検討し、地域の人材発掘と活用を図ります。

○ 参考1：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H27 実績値	H31 目標値
		H27 目標値	
教職員1人当たりの研修受講回数（回）	2.2	3.3 2.7	3.0
地域の指導者の登録者数（人）	138	126 170	190
ホームページで芸術・文化活動を紹介する文化団体数（団体）	260	273 268	272

○ 参考2：主な取組みの内容

◆ 教育研究所の研修講座

夏季・冬季などの長期休業中に指導技術などの専門的な力量はもちろん、豊かな人間性を育むため、教職員向け「研修講座」を開催しました。

平成27年度は、夏季においては「パソコン講座」「体育授業実践講座」「環境教育講座」「教育相談講座」等、冬季においては「アイヌ民族の文化と歴史講座」「食育講座」「メンタルヘルス講座」等を開催し、教職員のニーズに応じた、実効性のある研修講座を開催し、延べ531名の参加がありました。



夏季教員研修講座「体育授業実践講座」

◆ 帯広市民オペラ「こうもり」公演

帯広市内、十勝管内でのオペラ制作や上演を通じて声楽、合唱、バレエ、オーケストラの育成を図ることを目的として、帯広市民オペラが開催されました。第5回となった平成27年度は、多くの市民によってつくり上げられた喜歌劇「こうもり」が公演され、2日間の上演で、1,779人の方に観賞いただきました。

帯広市民オペラの公演や様々な取組みを通じて、市民の主体的な芸術・文化活動や地域文化のレベルアップを支援しています。



第5回帯広市民オペラ「こうもり」

基本方向3	教育環境の充実
市民が生き生きと学ぶことができるよう、安全・安心で利用しやすく、環境負荷の低減にも配慮した教育環境の整備をすすめます。	

○ 点検及び評価の結果

項 目	内 容
取組みの成果	(1)「学校教育の環境整備」については、小・中学校校舎の耐震化率は、目標値の100%を達成して、さらに、非構造部材の耐震化として屋内プール天井の落下防止対策工事を行いました。中学校・帯広南商業高校では、経年劣化により傷みや汚れが顕著となっていた机・椅子を更新しました。 (2)「社会教育の環境整備」については、図書館において自館または他機関・団体との連携により館内で企画展示や講演会などを行いました。動物園においてフリーディングローン（展示・繁殖のための動物の貸借）を活用しマンドリル・チンパンジーを導入し、展示動物の新しい魅力を提供しました。また、百年記念館では、常設展示室照明のLED化、非常用電源設備の更新、展示物の一部更新などを行い、市民文化ホールでは非常放送アンプの更新などを行いました。そのほか、新たな総合体育館建設に向けた実施方針（案）の策定などを行いました。 (3)「保育・体験活動の環境整備」については、児童会館において科学関連事業・文化関係事業の開催などを継続的に行い、児童会館の入館者数は、目標値を上回り、青少年を健全に育む環境づくりが順調に進んでいます。
課題及び今後の方向性	(1)「学校教育の環境整備」については、学校施設の長寿命化計画策定に向けて、国や道、他都市の動向の情報収集を継続するほか、学校施設の現状を把握し改修方法を検討するため、必要な調査を行います。老朽化が進んでいる施設の維持管理は、不具合が生じた後に行う「事後保全」型から「予防保全」型へ転換し、コストを平準化しながら建物の延命化を図るほか、非構造部材の耐震化や煙突用アスベスト含有断熱材、PCB廃棄物の処分について対応する必要があります。また、校務用パソコンの整備等について、機器のメンテナンスや効率的な維持管理、計画的な更新に努めるほか、学校情報の安全な運用確保のため情報セキュリティ水準の向上を目指します。 (2)「社会教育の環境整備」については、図書館において市民1人当たりの図書等の貸出点数は、施設利用者数の増加が、1回当たりの貸出点数の伸びに結びついていないことにより、目標値を下回っています。転入者へのPR、多様なジャンルの講座・講演会の開催により、継続して利用拡大に努めます。また、社会教育施設の利用者数は伸びていますが、多くの施設において老朽化や更新時期を迎えた設備があることから、市民の学習の拠点である施設の機能を維持できるよう、施設状況を適切に把握し、設備・備品の修繕と更新を行い、利用者の安全とサービスの維持向上を継続して進めていきます。 (3)「保育・体験活動の環境整備」については、「帯広市子ども・子育て支援事業計画」に基づき受入枠を確保するため、保育所や児童保育センターの整備を進めます。

○ 参考１：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H27 実績値	H31 目標値
		H27 目標値	
小・中学校校舎の耐震化率（％）	46.5	100.0 79.1	100.0
市民１人当たりの図書等の貸出点数（点）	5.4	5.8 6.4	7.0
児童会館の入館者数（万人）	10.9 (H17-19 平均)	14.4 11.7	12.0

※貸出点数は年間の点数

○ 参考２：主な取組みの内容

◆ 校務用パソコンの更新・増設

教職員が使用する校務用のパソコンやプリンタ等の機器については、これまで校内 LAN の整備と並行しながら、平成 21 年度と平成 25 年度に、段階的な導入を実施してきました。

平成 27 年度に行った機器の更新・増設によって、教職員 1 人につき 1 台の整備が完了しました。この結果、現在では共用端末等も含めた校務用パソコンの整備率は 104.5％へ達し、全国平均の 111.1％に近づいています。



新しい校務用パソコン

◆ ブリーディングローンによる展示動物の充実

「ブリーディングローン」とは、展示の充実や希少動物の繁殖のために動物園同士が互いに動物を貸したり借りたりする制度です。

平成 27 年度には、日本モンキーセンターよりマンドリルのメスを、旭山動物園よりチンパンジーのメスを借り入れ、現在、繁殖に取り組んでいます。

展示動物の健康管理に最善を尽くすとともに、絶滅の危機にある希少動物を飼育下で繁殖に努めるなど、貴重な命をつなぐことも動物園の役割です。



マンドリルのサラサウ

基本方向4	教育機会の確保
家庭の経済状況や障害の有無などに関わらず、安心して教育を受けることができるよう、教育機会の確保に向けた取組みをすすめます。	

○ 点検及び評価の結果

項 目	内 容
取組みの成果	(1)「就学・進学への支援」については、農村地域の遠距離通学の児童生徒に対しスクールバスを運行したほか、経済的な理由により児童生徒の就学が困難な保護者に対し、就学援助費を支給しました。また、進学機会の確保のため、私立高等学校生徒授業料補助や高校等の就学資金貸付などを行うとともに、高校の間口確保のため、「帯広市高等学校間口対策協議会」を中心に情報収集や要望活動を行いました。 (2)「健やかな発達の支援」については、特別な支援を必要とする子どもの教育的ニーズを把握しつつ、学校や地域の状況、保護者や専門家の意見等を総合的に勘案し、知的学級などの新設を進めたことにより、特別支援学級の設置数が前年に比べ5学級増加し、目標値を大きく上回りました。また、特別支援教育補助員や助手、生活介助員（看護師資格を有する者を含む）を継続して配置し、特別支援教育の充実を図りました。
課題及び今後の方向性	(1)「就学・進学への支援」については、スクールバスが老朽化していることから、計画的な更新を進めていくほか、家庭の経済的負担を軽減するため、就学援助費や私立高等学校生徒授業料補助を継続していきます。また、高校の間口を維持確保するため、引き続き「帯広市高等学校間口対策協議会」を通して情報収集や要望活動を行います。 (2)「健やかな発達の支援」については、個別の教育的ニーズのある児童生徒に対し、適切な支援を通じて必要な教育や指導を行うため、合理的配慮（※）に基づき、多様な柔軟な仕組みや環境の整備などを進めます。 ※合理的配慮：障害のある方から何らかの配慮を求める意思の表明があった場合に、負担になり過ぎない範囲で、社会的障壁を取り除くこと。

○ 参考１：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H27 実績値	H31 目標値
		H27 目標値	
特別支援学級の設置数（学級）	38	77	59
		59	

○ 参考２：主な取組みの内容

◆ 特別支援教育の充実

「特別支援教育」とは、障害のある児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援を行うことです。児童生徒の成長に合った適切な就学を図るため、特別支援教育の専門家で構成された教育支援委員会において、就学先を決定するための教育相談を平成27年度は360件実施しました。

また、特別支援学級については、新たに知的学級を4校、自閉症・情緒学級を1校で開設したほか、特別支援教育を充実させる取組みとして、介助が必要な児童生徒のために28人の生活介助員を配置するとともに、発達障害などの学習困難を抱える児童生徒のために54人の特別支援教育補助員を配置しました。



特別支援学級での支援の様子

基本方向5	よりよい教育のためのしくみづくり
地域の実情に応じた、より質の高い、魅力ある教育を推進するため、よりよい教育のためのしくみづくりをすすめます。	

○ 点検及び評価の結果

項 目	内 容
取組みの成果	(1)「魅力ある学校づくりの推進」については、平成27年度から「おびひろっ子学び支援事業」及び「おびひろっ子絆支援事業」とし、教育課程との関連や継続性などを考慮しながら、「こども学校応援地域基金プロジェクト」へのつながりを意識して、これまで以上に「地域と連携」した特色ある取組みを全小中学校で進めました。 (2)「学校教育のしくみの工夫改善」については、「帯広市エリア・ファミリー構想」の推進により、全ての中学校区（14 エリア）において幼保・小・中の学校種間の相互連携を図るエリア会議を開催し協議の場を設け、各エリアで「エリアの日」を設定し、挨拶運動、合同避難訓練、各種講演会などを開催しました。また、「おびひろっ子を育む9年教育プログラム」に関するリーフレットを全町内会に配布し市民に周知しました。 (3)「社会教育施設の利用の促進」については、各施設が堅調に利用者数を伸ばしています。社会教育施設の総利用者数は、とかちプラザで「プラザまつり」と「とかちマルシェ」が同日開催となったことや、「菊まつり」の会場となったことにより、また、スポーツ施設の利用者数についても、特に明治北海道十勝オーバルにおいて利用が伸びていることにより、目標値を上回りました。 (4)「地域の実情に応じた教育行政の推進」については、市内6か所で教育懇談会を開催し、教育委員が地域に出向いて市民と教育行政に関する意見交換を行い、その概要については市のホームページなどに掲載し、市民への周知を図りました。
課題及び今後の方向性	(1)「魅力ある学校づくりの推進」については、絆を育む学校づくり支援事業で培ったノウハウや継続した取組みを生かしながら、地域との連携や将来のビジョンをしっかりと見据えた事業として進めていきます。 (2)「学校教育のしくみの工夫改善」については、「帯広市エリア・ファミリー構想」の考え方を教職員、地域、保護者に広く浸透させ、全ての中学校区（14 エリア）で、学校種間の相互連携をより一層強化し、「学びと育ちをつなぐ」帯広らしい9年間の教育プログラムの推進を図っていきます。 (3)「社会教育施設の利用の促進」については、文化施設の利用者数は、目標値を下回りました。依然として芸術・文化に関する情報が市民に行き届いていないことから、各メディアの活用に加えて、各コミュニティ等を通じて、幅広く芸術・文化情報を発信していきます。 (4)「地域の実情に応じた教育行政の推進」については、地域の実情を教育行政に反映させていくため、教育懇談会の開催にあたり、より幅広い市民が参加できるよう、会場の変更など開催方法の工夫・改善を検討していきます。

○ 参考１：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H27 実績値	H31 目標値
		H27 目標値	
社会教育施設の総利用者数（万人）	95.2	108.0	95.2
		95.2	
文化施設の利用者数（万人）	54.8	52.0	60.0
		60.0	
スポーツ施設の利用者数（万人）	114.8	137.0	128.6
		128.6	

○ 参考２：主な取組みの内容

◆ おびひろっ子 9年教育プログラム

「帯広市教育基本計画」の基本理念に基づき、小・中学校 9 年間のつながりを大切にしながら、子どもたちに「知・徳・体」のバランスのとれた「生きる力」を育んでいます。

学校では、帯広の自然や地域の人材を生かした様々な学習や体験、地域の食材や人材を生かした「帯広らしい食育」などを、学年に合わせて取り入れています。

一人ひとりの学びと育ちをつなぐために、学校や家庭、地域が連携して取組みを進めています。



おびひろっ子 9年教育プログラム
PRリーフレット

◆ 四館連携事業

図書館、百年記念館、動物園、児童会館の 4 館が連携して、魅力ある学習機会などを提供し、施設の利用促進を図るための事業を行っています。

平成 27 年度は、連携イベントの 1 つとして、第 3 回目となる「よりどりみどりがおかフェスタ！」を開催し、動物のお面づくりなど子ども向けの各ブースは、たくさんの親子連れでにぎわいました。

北海道立帯広美術館、ばんえい振興室、みどりと花のセンターとも連携し、緑ヶ丘公園で楽しく学べるイベントとして定着しています。



「よりどりみどりがおかフェスタ！」の様子
(図書館の「動物にへんしん」)

3 教育に関する学識経験者の意見

公益財団法人 とかち財団 理事長 長 澤 秀 行

帯広市教育基本計画の個別目標に沿って設定された各指標は、順調に進行しているという印象です。中には目標値に達していない箇所もありますが、不可抗力でやむを得ない事情等の理由があり、種々の取組みについては、工夫の様子とその成果が見えます。従って、「帯広市教育基本計画」に沿った平成27年度の各種取組みに関する本報告書について、成果指標をもとに実施された点検・評価の内容は適正であり、課題及び今後の方向性について的確であると考えます。関係各位のご努力に敬意を表します。

具体的に例を挙げると、基本目標「次代を担う人づくり」の個別目標「知識・技能の習得」における「子どもの学力・学習意欲を高める教育の推進」については、標準学力検査の目標基準到達観点数の実績値が目標値に達しています。これは、教育現場における授業方法の改善や、きめ細かな教育の成果であり、研究会などを通じて教職員が一体となって取り組んだことによるものと推察いたします。また、家庭や地域との連携による家庭学習の充実なども影響していると思われます。

個別目標の「健やかな体づくり」に関しても、スポーツ活動の推進は順調に進んでいます。文武両道、心身ともに健やかな生活を送ることができるように、学力向上とともにスポーツ振興にも引き続き力を注いでいただきたいと思います。指標「学校給食における地場産野菜の導入率」に関しては、食育、食の安全、地産地消、環境への配慮など、種々の目的で導入率の向上を期待する意見が多いと思います。今回、実績値が下がっていますが、学校給食センターが新しくなり、設備が整ったことで野菜の年間使用量が増え、結果として実績値が大幅に下がったようです。今後も「帯広らしい食育プログラム」を推進し、健やかな体づくりに貢献していただきたいと思います。

基本目標「ともに学びきずなを育む地域づくり」の個別目標「ふるさとの理解の促進」及び「きずなづくり・まちづくり」については、ここ数年高いレベルで推移しており、地域において市民参画による取組みが定着している印象です。

「基本目標を実現するための基盤づくり」については、すべての項目の実績値が高い水準を維持あるいは上昇傾向にあり、関係者の努力や苦労が推察されます。小中学校校舎の耐震化率100%に加え、非構造部材の耐震化にも取組みを進めています。特別支援教育の充実、エリア・ファミリー構想の推進、「おびひろっ子」を育むための9年教育プログラム等の取組みは特筆すべき点です。平成27年度から「こども学校応援地域基金プロジェクト」の取組みが始まりました。地域ぐるみで子供たちを応援するこの取組みが市民に浸透し、拡大することが望まれます。

今後も、「ふるさとの風土に学び、人がきらめき、人がつながる、おびひろの教育」が更に充実し、帯広市教育基本計画の目標が順調に達成されることを期待します。

平成27年度の点検、評価にあたり、生涯学習、学校支援等、子どもや大人の学びの場に関わる立場から意見を申し述べます。報告書は、平成27年度の実績と成果、今後の課題が分かり易くまとめられ、実績値をみましても、全34指標のうち、25指標（73.5%）が目標値（毎年度変動指標を含め、前年度23指標）を達成し、最終年度の平成31年度の目標値を20指標上回っていて、計画が概ね順調に推進されていることが理解できます。

（1）「次代を担う人づくり」では、重要課題である学力の向上について、学習指導要領に基づき毎年度同一方式で実施している標準学力検査の結果をみますと、前年度に比べ4観点増の38観点（全42観点）で、目標値を達成し、学校における授業改善や家庭と連携した家庭学習の取組みによるものと評価できるでしょう。新たに導入された「クラウド型サーバーシステム」は、小・中学校に教材を提供する効果的なシステムとして、今後の活用に期待します。また、帯広南商業高校では、簿記実務、ビジネス文章、英語などの検定3種目以上1級取得率が目標値を上回り、就職率も100%で、就職指導の充実を感じます。

「豊かな心の育成」については、朝読書の取組み等で学校図書館の児童・生徒1人当たりの貸出冊数が目標値を上回っており、市図書館が学級の要望で本を貸出す「ぶっくーる便」（1セットに35冊）の利用が年間で平成26年度の423件から531件と年々増加傾向にあり、学校図書館の充実や市図書館との一層の連携が望まれます。

「健やかな体づくり」では、新学校給食センターの開設が、より豊富なメニューを可能にし、子どもたちにとって楽しい給食となっています。

（2）「ともに学びきずなを育む地域づくり」では、「地域に関する学習活動の推進」で、市民大学講座、地域が企画するコミュニティ講座の受講者が目標値を大幅に上回って、学びの場として定着しており、今後も多彩なメニューの提供を期待します。また、百年記念館等の出前講座は、さらに活用されるようにPRしていくとよいでしょう。

（3）「基本目標を実現するための基盤づくり」では、地域ボランティアによる学校支援活動が全小・中学校で積極的に展開され、新事業の「こども学校応援地域基金プロジェクト」には、地域の一層の連携、財政的支援を期待します。学校関係では、教育研究所を中心とした研修内容の充実で教職員の受講が増加し、校務用パソコンが教職員1人につき1台の整備が完了したことも評価できます。特別支援学級は、知的学級が4校、自閉症・情緒学級が1校で新たに開設され、要望に応えた自校化が推進されています。

以上、意見を述べさせていただきましたが、教育の取組みは、行政はもとより、学校、家庭、地域等多くの市民協力が不可欠であり、教育委員会では、より積極的で、充実した情報発信につとめ、市民との意識共有を図りつつ、事業推進されることを期待します。

参 考 資 料

○ 平成27年度教育委員会の活動状況

(1) 帯広市教育委員名簿

平成28年3月31日現在

役職	氏名	備考
委員長	田中 厚一	平成19年4月1日就任（平成20年12月22日委員長就任）
委員長職務代理者	伊藤 成昭	平成20年12月21日就任（平成27年6月29日職務代理者就任）
委員	門屋 充郎	平成20年6月23日就任
委員	藤澤 郁美	平成27年6月23日就任
委員（教育長）	八鍬 祐子	平成22年7月7日就任

(2) 教育委員会会議の開催状況（平成27年度）

期日	番号	案件
第8回 平成27年4月1日	選挙執行(1)	帯広市教育委員会委員長の選挙について
第9回 平成27年4月20日	議案第32号 議案第33号 報告第7号 その他	帯広市教育施策推進委員会設置規程の一部改正について 帯広市奨学生選考委員の委嘱について 臨時代理事項の報告について (1) 帯広市議会3月定例会の報告について (2) 確かな学力の向上・定着に向けて (3) いじめのない学校づくりに向けて (4) 体力運動能力テストの実施に係る考え方について (5) 今後の事業予定について (6) 寄附受納について
第10回 平成27年5月19日	議案第34号 議案第35号 議案第36号 議案第37号 議案第38号 議案第39号 議案第40号 議案第41号 報告第8号 報告第9号 その他	平成27年度帯広市一般会計補正予算について 帯広市教科用図書選定委員会委員の委嘱について 帯広市教育支援委員会委員の解職について 帯広市教育支援委員会委員の委嘱について 帯広市教育研究所運営委員会委員の委嘱について 帯広市学校給食センター運営委員会委員の任命について 職員の人事について 職員の人事について 教職員の処分について PFI事業に係る実施方針の策定の見通しの公表について (1) 今後の事業予定について (2) 寄附受納について (3) (仮称) 帯広市新総合体育館整備運営について
第11回 平成27年6月29日	選挙執行(2) 議案第42号 議案第43号 議案第44号 議案第45号 議案第46号 議案第47号 議案第48号 その他	帯広市教育委員会委員長職務代理者の選挙について 帯広市立高等学校教職員表彰規則の一部改正について 帯広市立高等学校教職員の表彰について 帯広市文化財審議委員会委員の委嘱について 帯広市民文化ホール運営審議会委員の委嘱について 帯広百年記念館運営審議会委員の委嘱について 帯広市スポーツ推進審議会委員の任命について 職員の人事について (1) 帯広市議会6月定例会の報告について (2) 今後の事業予定について (3) 寄附受納について (4) 帯広市新総合体育館の整備運営に向けたに取組み状況について
第12回 平成27年7月27日	議案第49号 議案第50号 報告第10号 その他	帯広市社会教育委員の委嘱について 教職員の処分内申について 平成27年度「おびひろっ子学び支援事業」及び「おびひろっ子絆支援事業」について (1) 今後の事業予定について (2) 寄附受納について (3) 帯広市立小中学校の適正配置の取組みについて
第13回 平成27年8月4日	議案第51号 議案第52号 議案第53号 その他	小学校用教科用図書の採択について 中学校用教科用図書の採択について 高等学校用教科用図書の採択について 教科用図書の採択に係る情報の公表について

期日	番号	案件
第14回 平成27年8月28日	報告第11号 報告第12号 報告第13号 その他	帯広市立小中学校の適正配置の取組みについて 帯広市新総合体育館の整備運営に向けた取組みについて 教職員の処分について (1) 帯広市内高等学校間口の維持確保に関する要望書について (2) 学校給食の給食メニューの変更について (3) 今後の事業予定について
第15回 平成27年9月16日	議案第54号 議案第55号 議案第56号 議案第57号 報告第14号 報告第15号 その他	平成26年度帯広市一般会計歳入歳出決算認定について 平成27年度帯広市一般会計補正予算について 平成27年度帯広市文化賞及び文化奨励賞等の決定について 平成27年度帯広市スポーツ賞及びスポーツ奨励賞の決定について 平成27年度全国学力・学習状況調査の結果について 帯広市市民文芸誌応募結果について (1) 帯広市内高等学校間口に関するこれまでの経過と対応について (2) 今後の事業予定について (3) 寄附受納について
第16回 平成27年10月26日	議案第58号 議案第59号 報告第16号 その他	平成28年度帯広市立高等学校の入学者募集について 平成27年度市民文芸賞及び市民文芸準賞の決定について とかちジュニア文芸第6号応募結果について (1) 帯広市議会9月定例会の報告について (2) 平成27年度教育懇談会の開催について (3) 今後の事業予定について (4) 寄附受納について その他・平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について ・平成27年度帯広市小中学校読書アンケート調査結果報告書について
第17回 平成27年11月9日	議案第60号 議案第61号 議案第62号 議案第63号 報告第17号 その他	平成27年度帯広市一般会計補正予算について 平成27年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について 教員の人事内申について 教職員の処分内申について とかちプラザ運営審議会委員の委嘱について (1) 今後の事業予定について (2) 寄附受納について (3) 帯広市新総合体育館の整備運営に向けた取組みについて
第18回 平成27年12月25日	議案第64号 議案第65号 報告第18号 報告第19号 その他	職員の人事について 教職員の処分内申について 平成27年度とかちジュニア文芸各賞の決定について 教職員の処分について (1) 帯広市議会12月定例会の報告について (2) 教育懇談会の概要報告について (3) 今後の事業予定について (4) 寄附受納について
第1回 平成28年1月18日	報告第1号 その他	平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について (1) 今後の事業予定について (2) 寄附受納について
第2回 平成28年2月8日	議案第1号 議案第2号 議案第3号 議案第4号 議案第5号 議案第6号 議案第7号 報告第2号 報告第3号 報告第4号 その他	平成27年度帯広市一般会計補正予算について 平成28年度帯広市一般会計予算について 平成28年度帯広市教育行政執行方針について 帯広市こども学校応援地域基金条例制定について おびひろ動物園ゆめ基金条例制定について 教職員の処分内申について 帯広市立高等学校教育職員等の給与、勤務時間その他勤務条件に関する条例の一部改正について 平成27年度帯広市教育研究実践表彰及び帯広市学校文化活動奨励賞について 帯広市新総合体育館の整備運営に向けた取組みについて 教職員の処分について (1) 平成27年度教育行政視察について (2) 今後の事業予定について (3) 寄附受納について
第3回 平成28年3月7日	議案第8号	教員の人事内申について
第4回 平成28年3月23日	議案第9号 議案第10号 議案第11号	職員の人事について 職員の人事について 教職員の処分内申について

期日	番号	案件
第5回 平成28年3月28日	議案第12号	職員の人事について
第6回 平成28年3月30日	選挙執行(1) 議案第13号 議案第14号 議案第15号 議案第16号 報告第5号 その他	帯広市教育委員会委員長の選挙について 帯広市教育委員会事務局組織規則の一部改正について 帯広市教育委員会職員職名規則の一部改正について 帯広市教育施策推進委員会設置規程の一部改正について 行政不服審査法の施行に伴う関係規則の整備等に関する規則制定について 帯広市学校教育指導の重点について (1) 帯広市議会3月定例会の報告について (2) 今後の事業予定について (3) 寄附受納について

・教育委員会会議開催回数 17回

議決案件	50件	うち非公開	31件	(うち所定の手続き後会議録を公開	17件)
報告案件	18件	うち非公開	10件	(うち所定の手続き後会議録を公開	6件)
その他	44件	うち非公開	5件	(うち所定の手続き後会議録を公開	5件)

〔参考〕教育委員会会議の非公開について

教育委員会会議は、公開が原則ですが、①個人の権利を侵害するおそれのあるもの、②職員の任免、賞罰、人事等、③附属機関の委員の任免、④議会の議案に係る意見申出、⑤訴訟、不服申立に係るもの、⑥教育行政の公正、円滑な運営に支障が生じるおそれがあるものについては、出席委員の3分の2以上の多数で、公開しないことができます。(帯広市教育委員会会議規則第16条)

(3) 課題研究協議会開催状況(平成27年度)

回数	開催日時	テーマ
1	平成27年5月19日	(仮称) 帯広市新総合体育館整備運営について 平成27年度中学校教科用図書採択について
2	平成27年6月29日	帯広市立小中学校の適正配置の取組みについて 帯広市新総合体育館の整備運営に向けた取組み状況について
3	平成27年7月23日	教科用図書の答申内容について
4	平成27年7月27日	帯広市立小中学校の適正配置の取組みについて
5	平成27年8月28日	帯広市新総合体育館の整備運営に向けた取組みについて
6	平成27年10月26日	教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について 帯広市新総合体育館の整備運営に向けた取組みについて
7	平成28年1月18日	(仮称) おびひろっ子応援基金条例の制定について (仮称) おびひろ動物園ゆめ基金条例の制定について
8	平成28年2月8日	帯広市新総合体育館の整備運営に向けた取組みについて 小中学校の適正規模及び適正配置等にかかる検討状況について
9	平成28年3月30日	帯広市特別支援教育の考え方に関する検討会における検討結果について

(4) 総合教育会議の開催状況(平成27年度)

期日	番号	案件
第1回 平成27年7月7日	報告事項 協議事項	総合教育会議について 教育大綱について
第2回 平成27年11月30日	報告事項 報告事項 協議事項	平成27年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について 平成27年度教育懇談会について 学校・家庭・地域の連携について

〔参考〕総合教育会議について

帯広市総合教育会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4第1項に基づき設置するもので、以下の事項について、帯広市長と帯広市教育委員会による協議及び事務の調整等を行うこととしています。

- (1) 帯広市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱の策定
- (2) 帯広市の教育を行うための諸条件の整備その他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき措置
- (3) 児童、生徒等の生命又は身体に現に被害が生じ、又はまさに被害が生ずるおそれがあると見込まれる場合等の緊急の場合に講ずべき措置

(5) 研修会参加状況(平成27年度)

日時	場所	研修会等	出席者
平成27年8月25日	苫小牧市	平成27年度北海道都市教育委員会連絡協議会定期総会	2人
平成27年11月13日	帯広市	平成27年度十勝管内市町村教育委員研修会	3人
平成28年1月26日～28日	東京都	平成27年度教育行政視察	3人

3回 延べ8人

(6) 行事等参加状況(平成27年度)

日時	行事名	出席者数
平成27年4月7日	給食センターオープニングセレモニー	5人
平成27年4月8日	市内小学校入学式	3人
平成27年4月8日	市内中学校入学式	4人
平成27年4月9日	帯広南商業高等学校入学式	4人
平成27年4月20日	給食試食会(帯広小学校)	4人
平成27年4月21日	帯広市体育連盟定期総会	1人
平成27年4月23日	給食試食会(緑園中学校)	4人
平成27年5月30日～ 平成27年5月31日	市内中学校体育祭	11人
平成27年5月30日～ 平成27年6月7日	市内小学校運動会	17人
平成27年6月18日	帯広少年院体育祭	1人
平成27年8月27日	帯広少年院生活意見発表会	1人
平成27年9月3日	平成27年度帯広市教育講演会	4人
平成27年9月18日～ 平成27年12月4日	市内小中学校公開研究会等	35人
平成27年9月23日	帯広市功労者表彰式	3人
平成27年10月12日	平成27年度帯広市スポーツ賞・スポーツ奨励賞贈呈式	5人
平成27年10月18日	東小学校開校60周年記念式典	5人
平成27年10月25日	開西小学校開校30周年記念式典	4人
平成27年10月27日	特別支援合同学習発表会	2人
平成27年10月28日	平成27年度移動教育委員会(北海道教育委員会)	2人
平成27年11月3日	平成27年度帯広市文化賞・文化奨励賞贈呈式	5人
平成27年11月4日～ 平成27年11月25日	教育懇談会	18人
平成27年11月8日	キッズタウン	1人
平成27年11月8日	明星小学校開校80周年記念式典	5人
平成27年11月28日	第七中学校開校50周年記念式典	3人
平成27年12月5日	市民文芸賞贈呈式	2人
平成27年12月10日	帯広少年院生活意見発表会	1人
平成28年1月4日	帯広市新年交礼会	2人
平成28年1月10日	帯広市大人の集い	5人
平成28年1月25日	交流給食会(豊成小学校)	5人
平成28年2月12日	十勝管内教育委員会連絡協議会役員会	1人
平成28年2月14日	清川小学校開校50周年記念式典	4人
平成28年2月21日	ジュニア文芸贈呈式	1人
平成28年2月25日	教育関係団体との意見交換会	5人
平成28年2月29日	平成27年度帯広市教育研究実践表彰及び文化活動奨励賞授賞式	3人
平成28年3月1日	帯広南商業高等学校卒業式	4人
平成28年3月15日	市内中学校卒業式	3人
平成28年3月24日	市内小学校卒業式	2人
平成28年3月31日	教職員辞令交付式	5人

延べ190人

○ 平成27年度教育行政執行方針

1. 基本的な考え方

今日、我が国では、少子高齢化や高度情報化、グローバル化などを背景に、教育を取り巻く社会情勢が大きく変化しているなかで、安全安心の確保、学力・学習意欲・体力・運動能力の低下、人間関係の希薄化など、子どもに関わるさまざまな課題が指摘されています。また、本年4月には新たな教育委員会制度が始まりますが、教育の政治的中立性・継続性・安定性を確保しつつ、より一層、基礎自治体の長との連携をはかりながら、今日的な教育行政の課題に取り組んでいくことが求められています。

こうしたなか、子どもから高齢者までの人の成長をしっかりと見据えながら、豊かな自然、先人が培ってきた英知や開拓の歴史など、かけがえのない財産や資源を活用し、関係機関や学校・家庭・地域が一体となり、社会を挙げて教育に取り組むことがますます重要になるものと考えております。こうした考えのもと、引き続き、帯広市教育基本計画の基本理念であります「ふるさとの風土に学び 人がきらめき 人がつながる おびひろの教育」の実現に努め、帯広らしい教育をすすめてまいります。

2. 取組みの方向性

帯広市教育基本計画の基本理念を実現するために、同計画においては「次代を担う人づくり」「ともに学びきずなを育む地域づくり」の二つの基本目標と「基本目標を実現するための基盤づくり」を掲げています。

以下、基本目標に基づき、取組みの方向性を述べさせていただきます。

第一に、「次代を担う人づくり」については、知・徳・体の調和のとれた自立した人づくりのために、学校と家庭とが両輪となり、小学校・中学校の義務教育9年間を見据え、「生きる力」の基盤となる確かな学力、豊かな心や社会性、健やかな体を育む教育をより一層推進していくほか、生涯にわたる多様な学習機会の充実や文化・スポーツに親しむ機会の提供に取り組みます。

本年4月、新たな学校給食センターの供用開始を契機として、地域の皆さんの知恵をいただきながら、十勝・帯広の豊かな大地に育まれる農畜産物を積極的に活用し、子どもたちが健やかに成長できるよう、安全・安心で魅力ある学校給食を提供します。また、子どもたちが健全な食生活を実践するとともに、食に関わる地域産業への理解を深めるよう、学校・家庭・地域の連携のもとに食育を推進します。このほか、人間を尊重し自然と共生する社会づくりのため、恵まれた自然を生かした学習活動などをすすめます。

第二に、「ともに学びきずなを育む地域づくり」については、学びを通じた協働の地域づくりをすすめるために、ふるさとの風土に学ぶ学習活動の充実に取り組むほか、学習成

果を活用したボランティア活動が広がるよう支援してまいります。

また、文化活動の多様な発表機会やさまざまな芸術・文化にふれる機会を提供するほか、スポーツ大会などを通じた活力ある地域づくりに取り組むとともに、国内外の選手・アスリートが集う大会・合宿などを誘致し、にぎわいやうるおいをもたらす取組みをすすめます。

第三に、「基本目標を実現するための基盤づくり」については、子どもたちの学びや育ちをつなぐ帯広らしい小中連携の仕組みの充実や、学校を中心とした地域総ぐるみでの子どもを応援する環境づくりをすすめるほか、教員の人間力・指導力の向上、地域での学習活動や芸術・文化・スポーツ活動を支える人材の育成など、地域全体の教育力の向上をはかります。

また、学校施設の改修や特別支援教育の充実など、良好な教育環境の確保に取り組むほか、気軽にスポーツに親しみ、交流やにぎわいを創出する新たな総合体育館の建設に向け具体的な取組みをすすめます。

3. 主な取組み

(1) 次代を担う人づくり

① 知識・技能の習得

全国学力・学習状況調査などの結果分析を踏まえた指導方法の工夫改善や、家庭学習の時間の確保、早寝・早起き・朝ごはんなどの生活習慣の改善をすすめるとともに、地域住民のニーズに応じたコミュニティ講座などを開催し、引き続き学習機会の提供を行います。

職業に関する教育・学習活動については、発達段階に応じた職場訪問や職業体験などキャリア教育を充実させるとともに、南商業高等学校においては実践的なキャリア教育に取り組めます。また、情報活用能力・情報モラル育成のため、指導方法を充実させます。

② 豊かな心の育成

道徳教育の充実に取り組むとともに、「いじめ非行防止サミット」などを通じて、子どもたちの主体的な活動を支援し、子どもの社会性の育成をはかります。また、生徒指導アドバイザーによる相談・支援体制を充実させるほか、教員の指導力の向上に努め、いじめや不登校、非行及び事故の未然防止・早期発見、早期対応に取り組めます。

また、学校図書館の蔵書の整備をすすめるとともに、市図書館における読書相談や調べ物学習をはじめとした各種講座の開催、ジュニア文芸の募集・発刊などを通して、子どもの自主的な読書活動をすすめます。

市民主体の芸術・文化活動については、市民芸術祭・市民オペラ公演などを開催し、芸

術性の向上や新たな文化の創造、若い世代の人材育成をはかるほか、小中学生のための札幌コンサートなどの鑑賞機会の提供に努めます。

③ 健やかな体づくり

小中学校の全学年において実施する体力・運動能力調査の結果分析を踏まえ、体力向上に向けた1校1実践の取組みを充実させるとともに、学校施設の開放や、地域住民が運営する「総合型地域スポーツクラブ」の活動支援、「フードバレーとかちマラソン大会」の開催支援により、スポーツへの市民参加機会を充実させます。

また、栄養教諭や食育指導専門員などによる学校での食育指導を効果的にすすめるとともに、教員・保護者向けの講演会を開催するほか、新たな学校給食センターの機能を生かし、地元産食材の活用、新メニューの工夫、食物アレルギー対応食の提供など、より一層、安全・安心で魅力ある学校給食の提供に努めます。

④ 人間を尊重し自然と共生する人づくり

関係部課などと連携し、様々な機会を通して、人権や福祉、男女共同参画に関する教育・学習活動をすすめるとともに、グローバル化に対応できる人材を育成するため、計画的に講師派遣を行い、小学校での外国語活動や国際理解教育、中学校での外国語教育の指導を充実させます。

環境に関する教育・学習活動の推進については、学校と社会教育施設が連携し、環境教育を目的とした出前講座や自然観察会を実施し、動物や自然環境への理解と関心を深める取組みをすすめます。

(2) ともに学びきずなを育む地域づくり

① ふるさとの理解の促進

小学校における社会科副読本の活用や、社会教育施設と連携した郷土体験学習、自然体験学習などを通じて、ふるさとの自然や産業、アイヌ民族の文化や歴史に関する学習を充実させます。

また、地域の歴史や文化を学ぶ市民大学講座や博物館講座を開催し、ふるさとに関する理解を深める機会を提供するとともに、図書館では継続して帯広叢書(そうしょ)を発行するなど、郷土資料の整備を行います。

② きずなづくり・まちづくり

地区生涯学習推進委員会が企画・立案するコミュニティ講座の開催により、学習や交流の機会を提供し、地域のきずなを深めるとともに、ボランティア養成講座や研修会を開催し、専門性を生かした活動や協働での事業実施など、環境整備に取り組みます。

また、市民ギャラリーの利用促進のため、展覧会情報をホームページや電子掲示板など様々な方法で幅広く提供するとともに、市民が日頃の練習や創作活動の成果を発表する市民芸術祭や市民オペラ公演を開催するほか、全国中学校体育大会サッカー競技、全国実業団対抗テニス大会など、全国・全道大会の開催支援や、平成29年2月の冬季アジア大会スピードスケート競技開催に向けた広報宣伝活動の強化をはかり、スポーツを通じた交流をすすめます。

(3) 基本目標を実現するための基盤づくり

① 学校・家庭・地域の連携

開かれ信頼される学校づくりのため、学校評価・学校評議員制度の活用や、学校ホームページでの積極的な情報発信により、保護者や地域住民との協力による学校運営を充実させます。

また、学校支援地域本部事業などの既存事業を強化するとともに、「こども学校応援地域基金プロジェクト」を創設し、学校を中心とした、地域ぐるみで子どもを応援する仕組みづくりをすすめます。

次に、家庭教育を支援するため、市図書館から年齢別のブックリストを配布するなど発達段階に応じた情報提供の充実に努めるとともに、百年記念館での親子陶芸教室や七宝教室など、親子で参加できる学習機会の提供に取り組みます。

② 教育を支える人材の育成

確かな力量と豊かな人間性を備えた教員ミドルリーダーを育成するため、引き続き「21世紀教師塾」を開催するほか、研修会の開催や、帯広市学力向上推進プロジェクトチームの取組みなどを通して、教員の人間力・指導力の向上をはかります。また、クラウド型共有サーバーを導入し、独自教材の共有化などにより、児童生徒の学習機会を充実させます。

講座・教室の指導者や運営ボランティアを次世代に継承していく取組みを強化し、地域の指導者の登録者数増加に努めるとともに、市のホームページなどで、文化団体の活動に関する情報を提供します。また、スピードスケート競技の底辺拡大や、競技力の向上、指導者育成の取組みとして「ほっとドリームプロジェクト」を継続します。

③ 教育環境の充実

学校施設においてトイレの洋式化を行うとともに、国から示された非構造部材の耐震化として屋内プール吊り天井の落下防止対策を実施するほか、小中学校の校務用コンピュータの増設や、学習環境の向上のため中学校及び南商業高等学校の生徒用机・椅子を更新します。

また、社会教育施設の適切な維持管理に努めるとともに、新たな総合体育館の整備に向け、PFI方式による取組みをすすめるほか、動物園においては、国内動物園と共に希少動物の繁殖に向けた取組みや、道内動物園・帯広畜産大学などと連携した活動を充実させます。

④ 教育機会の確保

家庭の経済的負担を軽減するため、就学援助費の支給や私立高等学校生徒授業料補助を継続します。また、支援を必要とする児童生徒一人ひとりのニーズに応じた特別支援学級の開設や支援員の配置など、特別支援教育の充実に努めます。

⑤ よりよい教育のためのしくみづくり

学校の教育活動を点検する学校評価の実施やその結果及び改善方策についての情報提供をすすめるとともに、創意工夫を生かした特色ある学校づくりに引き続き取り組むほか、エリア・ファミリー構想による連携体制を強化し、学びや育ちをつなぐ各エリアの実効性ある取組みを積極的に進め、発達段階に応じた適切な指導を充実させます。また、小中学校の適正配置については、改めて検討協議をすすめてまいります。

図書館、百年記念館、動物園、児童会館において、共通テーマに基づく「四館連携事業」を引き続き実施するなど、社会教育施設の利用を促進します。

開かれた教育委員会づくりをさらにすすめるため、教育懇談会の開催方法や内容の工夫をはかるとともに、市のホームページなどにより教育行政に関する情報提供をすすめます。

○ 平成27年度予算決算

単位 (円)

科 目	予算現額	決算額	翌年度繰越額	主な内容
教育費	5,204,733,000	4,966,118,363	0	
教育総務費	220,052,000	205,042,820	0	
教育委員会費	5,448,000	5,251,599	0	教育委員報酬及び会議等の出席に係る旅費等
事務局費	93,846,000	82,783,319	0	事務局運営費、教職員管理費、奨学金貸付事業等
指導研修費	82,640,000	81,001,544	0	教育相談員・学校評議員・外国人講師に係る報酬等
教育研究所費	20,266,000	19,630,850	0	所員報酬、教育研究所運営費等
教職員住宅費	17,852,000	16,375,508	0	教職員住宅の修理費、教職員住宅の改築・取壊し設計委託料等
小学校費	1,297,018,000	1,197,497,039	0	
学校管理費	793,382,000	725,983,389	0	小学校管理費、プール・リンク造成・維持管理費、学校保健事業費、スクールバス運行事業費等
学校営繕費	42,372,000	41,550,133	0	学校営繕費
教育振興費	294,695,000	274,539,187	0	教材教具購入費、就学援助費、学校図書資料整備費、教育用コンピュータ管理費等
施設整備費	166,569,000	155,424,330	0	学校・学習環境整備費、リニューアル改修事業費
中学校費	560,212,000	514,669,227	0	
学校管理費	300,785,000	271,813,096	0	中学校管理費、リンク造成・維持管理費、学校保健事業費、スクールバス運行事業費等
学校営繕費	30,565,000	30,390,975	0	学校営繕費
教育振興費	209,379,000	193,268,732	0	教材教具購入費、就学援助費、学校図書資料整備費、教育用コンピュータ管理費等
施設整備費	19,483,000	19,196,424	0	学校・学習環境整備費、リニューアル改修事業費
高等学校費	106,004,000	98,114,275	0	
学校管理費	62,351,000	55,041,400	0	南商管理費、学校保健事業費、外国人英語指導助手報酬等
学校営繕費	2,048,000	2,025,961	0	南商営繕費
教育振興費	41,605,000	41,046,914	0	教材教具購入費、学習環境管理費、キャリア教育推進費

単位（円）

科	目	予算現額	決算額	翌年度繰越額	主な内容
	社会教育費	849,453,000	826,887,650	0	
	社会教育総務費	12,134,000	10,985,985	0	社会教育委員、嘱託職員等報酬、講座開催経費等
	文化振興費	34,138,000	31,343,030	0	文化団体等補助金、事業開催負担金、文化財経費等
	とかちプラザ費	191,123,000	190,959,093	0	とかちプラザ管理費
	市民文化ホール費	155,342,000	155,324,359	0	市民文化ホール管理運営費、機器類リース料等
	百年記念館費	73,404,000	67,205,397	0	百年記念館管理運営費、学芸調査員等報酬、講座開催経費等
	図書館費	200,618,000	195,279,665	0	図書館管理運営費、図書資料等整備費、郷土資料関連経費等
	動物園費	153,637,000	148,195,144	0	動物園管理運営費、遊具管理費、施設修繕等
	市民ギャラリー費	29,057,000	27,594,977	0	市民ギャラリー管理費
	保健体育費	2,171,994,000	2,123,907,352	0	
	保健体育総務費	75,880,000	70,963,232	0	スポーツ行事・活動関係経費、団体育成・大会開催費、学校開放経費、指導者育成経費等
	体育施設費	960,000,000	950,247,687	0	社会体育施設管理運営費、施設修繕・改修費等
	学校給食センター費	1,136,114,000	1,102,696,433	0	学校給食センター管理費、賄材料費、委託料、学校給食食育推進費、等

※翌年度繰越額は、継続費及び繰越明許費

○ 平成27年度における主な取組み一覧

(1) 次代を担う人づくり

① 知識・技能の習得

展 開 方 策	主 な 取 組 み
子どもの学力・学習意欲を高める教育の推進	全国学力・学習状況調査、CRT 標準学力検査、おびひろっ子学び支援事業、おびひろっ子絆支援事業、外国人講師の小中学校派遣、教育課程検討委員会、学力向上推進班（学力向上推進プロジェクトチーム含む）学級経営・授業改善ワンポイント講座（2回、延べ84人参加）、データベース教材の作成（全国学力・学習状況調査に対応した中学校数学）、南商での外国人英語指導助手配置（1人）、ぶっくーる便（531件、18,585冊）、パスファインダー（全54種類のうち3種類新規、14種類改訂）、ジュニア文芸誌第6号（応募者184人、260作品）、調べてみよう動物のこと（20人）、なぜ？どうして？どうぶつ謎ナゾ講座（17人）、小説・童話教室（13人）、短歌・俳句教室（2人）、読書感想文教室（7人）、小学生の1日飼育係（5回、51人）、親子で挑戦！動物園のミステリークイズ（2回、28人）、幼児・児童動物画写生コンクール（201人）
個人や社会のニーズに応じた学習活動の推進	コミュニティ講座（22,807人）、生涯学習情報誌（情報誌「まなびや」成人向け4回、小学生向け2回）、自然観察会（18人）、郷土学習見学会（65人）、博物館講座（796人）、連続講座（10人）、地質講座（166人）、体験教室（662人）、企画展（9,645人）、収蔵作品展（1,758人）、レファレンス、地域防災訓練（東小、730人）、冬季防災訓練（柏小、201人）、防災セミナーinとかち2015（293人）、防災グッズ展（690人）、学校での避難訓練（全小中学校）、自主防災組織研修会講師派遣事業（12団体、563人）、市民防災フェスティバル（参加者 約5,500人）、防犯グッズ展、防犯講話（35団体、824人）、交通安全教室（366回、35,954人）、消費者講座（7回、321人）、地域消費者講座（28回、1,155人）、消費者被害予防教育講座（24回、1,442人）、みんなの消費生活展（1,257人）、防災出前講座（45団体、2,006人）、親子防災講座（26団体、3,340人）
職業に関する教育・学習活動の推進	おびひろキッズタウン2015（25企業等、児童374人）、南商インターンシップ事業（協力事業者 52事業者）
高度情報化に対応した教育・学習活動の推進	教育用パソコンの活用（1,505台）、帯広市ネット非行対策連絡会議、携帯電話販売店の立入調査、ネット非行連絡会議講演会

② 豊かな心の育成

展 開 方 策	主 な 取 組 み
子どもの社会性の育成	郷土体験学習（小学４年生対象）、自然体験学習（中学２年生対象）、適応指導教室の開設、生徒指導アドバイザーの派遣、教育相談員の配置、いじめ・不登校・非行等に関する対策委員会の設置、こころの教室相談員の配置（６人）、家庭訪問相談員の配置（５人）、スクールソーシャルワーカーの配置（２人）、南商におけるボランティア活動（３２クラブ）、放課後子ども広場の実施（２６校、延べ８１７回、延べ２２,８３４人）、中学生からのメッセージ事業、大人の集い（１,２５０人）、地域子ども会リーダー宿泊研修会（２６４人）、ジュニアリーダー養成講座「あすかの会」（３１人）、ジュニアリーダー「あるふあの会」（３５人）、子ども王国の開催、十勝子ども雪合戦（３７チーム、２２５人）、児童会館での体験活動（文化関連事業４,５７２人、宿泊学習等３,５７０人）、青少年センター事業（巡回指導、声かけ指導、ヤングテレホン相談等）、子ども親善訪問団相互派遣事業（徳島市、松崎町、大分市）
豊かな情操の育成と生きがいづくり	学校図書館の図書資料の整備・充実（３,４３７冊）、司書教諭の配置（２７校、２７人）、図書館・学校連携事業（ぶっくーる便５３１件・１８,５８５冊、学校図書館クリニック２校）、コミュニティ講座（２２,８０７人）、高齢者学級（１５８人）、生き生きふれあい祭（わかば会）、第３４回おびひろ市民芸術祭（入場者数１２,４００人）、立川談春三十周年記念落語会「もとのそー」（５３５人）、DRUM TAO「百花繚乱 日本ドラム絵巻」（７７５人）、弦巻楽団「死にたいヤツら」（２９２人）、フジコ・ヘミングとＮ響の仲間たち（１,５０８人）、ウィーン・ヨハン・シュトラウス管弦楽団「ニューイヤー・コンサート」（８０７人）、地元アーティスト支援事業 伊藤夢里子ピアノリサイタル（５３４人）、漫才のDENDO全国ツアー帯広公演（１,３５４人）、小曽根真ピアノソロライブ（７５８人）、第５回帯広市民オペラ「こうもり」（１,７７９人）、第２７回親と子のわくわく音楽会（９２５人）、帯広市小中学生のための札幌コンサート（２,３９６人）、幼児向けプチコンサート（１０７人）、こどもオペラ「ヘンゼルとグレーテル」（４８７人）、帯広美術館特別企画展「草月流秘蔵コレクション展」（５,３５９人）、第２５回「狂言づくしの会」（５０４人）、帯広市文化活動功労賞（２個人、２団体）、市民文藝第５５号（応募者数９３人、１,０６９作品）、とかちジュニア文芸誌第６号（応募者数１８４人、２６０作品）、語り手育成講習会（３講座、３回、７９人）、学校図書館クリニック（２校、若葉小・緑丘小）、劇団四季鑑賞事業「むかしむかしゾウがきた」（１,４８１人）

③ 健やかな体づくり

展 開 方 策	主 な 取 組 み
健やかな体を育むスポーツ活動等の推進	帯広市体力・運動能力調査、スポーツ教室・講習会（141 回）、スポーツ・レクリエーション事業（3 事業）、総合型地域スポーツクラブ（5 団体）、スポーツ少年団登録（81 団体、1,874 人）、クロスカントリー大会
食育の推進と学校給食の充実	食育検討委員会の設置、食育レシピ集の作成・配布、食育講演会（1 回）、栄養教諭等による給食指導・教科指導、「ふるさとの日」給食の実施（9 月～11 月の各月・3 コース各 1 日）、親子で給食づくり（2 回、46 人）、食育指導専門員の配置（2 人）、農業技術センター展示ほ場見学（971 人）、帯広の森サラダ館学童農園（28 団体、2,075 人）、食育フェスティバル開催、食育推進サポーター講座（15 人）、食育推進サポーター登録（団体・個人 26）、保育所での食育講座（10 所、182 人）、保育所給食試食会（1,336 人）、こどもクッキング（59 回）

④ 人間を尊重し自然と共生する人づくり

展 開 方 策	主 な 取 組 み
人権・福祉・男女共同参画に関する教育・学習活動の推進	児童虐待防止推進月間パネル展、児童虐待防止啓発リーフレットの作成、女性活躍推進フォーラム（1 回、基調講演 87 人・分科会 54 人）、 ^{ひと} 女と男の一行詩作品募集・展示（148 作品、82 人）、男女共同参画情報誌（年 2 回、各 3,000 部）、男女共同参画講座（4 回、130 人）、社会参画支援講座（2 回、46 人）、デートDV予防講座（3 回、358 人）、UD 講座の開催（11 回、294 人）、児童虐待防止ハンドブックの作成、児童虐待防止啓発広告の掲載
グローバル化に対応した教育・学習活動の推進	小中学校に外国人講師派遣、長期休業中に学校の希望に応じて外国人講師派遣、「Obihiro サマーイングリッシュ・ウインターイングリッシュ」の開催、南商での外国人英語指導助手配置（1 人）、マディソン市派遣（生徒 3 人、引率教員 1 人）、高校生相互派遣（米国スワード市 5 人派遣・3 人受入、中国朝陽市 2 人派遣・5 人受入）、市民交流団体の国際交流活動への支援（3 団体）
環境に関する教育・学習活動の推進	帯広らしい環境教育プログラム集の発行・配布、帯広らしい環境教育ホームページによる情報発信、児童会館科学展示（入場者 33,054 人）、プラネタリウム上映（入場者 11,583 人）、児童会館での科学教室・工作教室等（10,214 人）、出前環境教室（68 件、2,080 人）、環境にやさしい活動実践校認定（全 32 校、小 17 校・中 14 校・高 1 校）、ごみ懇談会・エコエコ紙芝居・環境学習支援事業（34 回）、中高生の 1 日飼育係（1 回、3 人）、大人の 1 日飼育係（4 回、14 人）、親子で挑戦！動物園ミステリークイズ（2 回、28 人）、夜の裏側探検隊（2

	回、56 人)、冬の裏側探検隊 (1 回、25 人)、スポットガイド (随時)、ふれあい教室 (78 組、2,189 人)、よるの動物園 (3 日、6,861 人)、秋の裏側探検隊 (1 日、42 人)、春の裏側探検隊 (1 日、44 人)
--	--

(2) ともに学びきずなを育む地域づくり

① ふるさとの理解の促進

展 開 方 策	主 な 取 組 み
子どものふるさと教育の推進	郷土体験学習 (小学 4 年生対象)、自然体験学習 (中学 2 年生対象)、アイヌ民族文化理解促進指導用教材の作成
地域に関する学習活動の推進	地域の学習情報・指導者情報のホームページでの提供、市民大学講座 (56 講座、受講者 3,442 人)、コミュニティ講座 (22,807 人)、高齢者学級 (158 人)、生涯学習情報誌の発行、「リウカ」の活動、埋蔵文化財センターの活動

② きずなづくり・まちづくり

展 開 方 策	主 な 取 組 み
まちづくりへの参画を促進する教育・学習活動の推進	中学生からのメッセージ事業、成人の集い (1,250 人)、地域子ども会リーダー宿泊研修会 (264 人)、ジュニアリーダー養成講座「あすかの会」(31 人)、ジュニアリーダー「あるふあの会」(35 人)、南商におけるボランティア活動 (32 クラブ)、市民大学講座 (56 講座、受講者 3,442 人)、コミュニティ講座 (22,807 人)、生涯学習情報誌の発行、生涯学習コーディネーターの支援、語り手育成講習会 (3 講座、3 回、79 人)、百年記念館の常設展示解説 (26 回)、レコードコンサート (7 回)
にぎわいや交流を促進する文化・スポーツの振興	第 34 回おびひろ市民芸術祭 (入場者数 12,400 人)、明治オーバル利用大会 (開催数 42 大会)、日韓競技大会 (開催種目 2 種目)、スケートキングダム開催 (4 回)、プロスポーツ大会 (4 回)、スポーツ合宿誘致 (222 団体)、フードバレーとかちマラソン大会 (4 回目)、日本クラブユースサッカー選手権大会 (5 年連続開催)

(3) 基本目標を実現するための基盤づくり

① 学校・家庭・地域の連携

展 開 方 策	主 な 取 組 み
開かれた学校づくり	公開研究会、地域公開参観、学校図書館土曜開放事業、学校開放事業(29校)、学校評議員設置(全小中学校 195 人)、新任学校評議員研修会、学校評議員だより(年 3 回)、南商学校開放講座(28 人)
家庭教育への支援	地域子育て支援センター(6 か所、延べ相談件数 4,185 件、延べ利用組数 32,920 組)、子育てメール通信登録(1,674 件)、子育て応援ボランティア(15 団体、137 人)、子育て講座(8 か所、224 回)、子育て応援事業所(233 事業所)、家庭教育学級(12 学級、155 人)、ファミリーサポートセンター事業(408 人、活動 565 件)、子育てガイドブック(2,600 冊)、発達支援ガイドブック「あくせす」(350 冊)、生活支援ファイル「つなぐっと」の配付(516 冊)、あそびの広場(109 回、966 組、2,010 人)、サンデーファミリー事業(12 回、243 組、646 人)、こんにちは赤ちゃん訪問(544 回)、小中学生の保育体験・保育ボランティアでの交流(26 所(園))、高校生と幼児の交流(16 所(園))、町内会・老人クラブとの交流(70 回)、図書館の「絵本との出会い事業」(12 回)、おはなし会(113 回、3,817 人)、わくわく♪ドキドキ!!家読(うちどく)にチャレンジ!(1 回、106 人)、夏休み親子陶芸教室(3 回)、冬休み親子陶芸教室(2 回)、親子七宝教室(1 回)、親子で挑戦!動物園ミステリークイズ(2 回、28 人)
家庭や地域による教育支援の推進	学校支援地域本部の設置(全小中学校 40 校)、子どもの見守り活動(全小中学校 40 校)、子ども 110 番の家設置登録(1,110 件)、放課後子ども広場の実施(26 校、延べ 817 回、延べ 22,834 人)

② 教育を支える人材の育成

展 開 方 策	主 な 取 組 み
教員の人間力・指導力の向上	学校指導訪問での指導・助言、教員リーダー育成講座(4 回)、中央教育課題思潮等調査研究事業(4 人)、パソコン研修講座(延べ 590 人)、研究紀要「帯広の子ども」の学力」発行、全道教科担当指導主事研究協議会、教育課程検討委員会、帯広市教育研究会事業補助、公開研究会
地域人材の発掘・育成・活用	地域の指導者の登録(126 人)、新人演奏会(274 人)、帯広市文化活動功労賞(2 個人、2 団体)、スポーツ指導者の講習会・研修会(開催数 5 回)、少年団指導者認定講習会(2 回)、スポーツ大会派遣補助(186 件、778 人)、体育連盟加入団体(44 団体、49,255 人)、ほっとドリームプロジェクト(競技者の育成事業 4 回、底辺の拡大事業 6 回)

③ 教育環境の充実

展 開 方 策	主 な 取 組 み
学校教育の環境整備	屋内プール天井落下防止工事（非構造部材耐震化、小学校 3 校）、校務用パソコンの更新・増設（更新 291 台、増設 470 台）、プリンタの更新（40 台）、机・椅子更新（中学校 3 年生分 1,565 セット）、新たな学校給食調理場（学校給食センター）での供用開始（平成 27 年 4 月から）、「帯広市子供安全ネットワーク」の運用と改善
社会教育の環境整備	とかちプラザ館内各機器修繕・更新及び備品修理、展示室照明の LED 化、動物園給水管更新の設計・工事、プリーディングローンによるマンドリル・チンパンジーの導入、新総合体育館建設に向けた基本計画・PFI 導入可能性調査、アイスアリーナのフェンスドア及び加圧給水ポンプ修繕
保育・体験活動の環境整備	緑ヶ丘児童保育センター実施設計、児童保育センター整備事業（学校内移転整備）

④ 教育機会の確保

展 開 方 策	主 な 取 組 み
就学・進学への支援	就学援助認定（小 1,768 人、中 1,067 人）、私立高等学校生徒授業料補助（219 人）、奨学資金貸付（大学生 51 人、専門学校生 3 人、高校生 2 人）、幼稚園就園奨励費の支給（1,874 人）、帯広市高等学校間口対策協議会の開催（3 回）、要望書の提出
健やかな発達への支援	就学に関する教育相談の実施（360 件）、特別支援教育助手の配置（10 人）、特別支援教育補助員の配置（54 人）、生活介助員の配置（28 人）、特別支援学級の開設（知的学級 4 校、自閉症・情緒学級 1 校）、障害者高等教育補助（100 人）、特別支援保育（26 所）

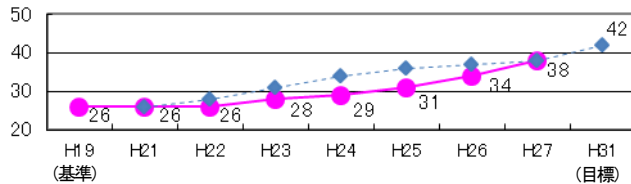
⑤ よりよい教育のためのしくみづくり

展 開 方 策	主 な 取 組 み
魅力ある学校づくりの推進	おびひろっ子学び支援事業・おびひろっ子絆支援事業の実施（全小中学校 40 校）、小規模特認校就学（児童 2 人）
学校教育のしくみの工夫改善	帯広市幼保小中連携推進委員会の設置、帯広市エリア・ファミリー構想の推進（市内全 14 エリアで協議の場を設置）、幼保小中連携エリア実践交流会（参加 49 人）
社会教育施設の利用の促進	社会教育施設連携アクションプログラムの充実（「よりどりみどりがおかフェスタ！」）、スポーツ活動に関するホームページでの情報提供（14 項目）
地域の実情に応じた教育行政の推進	教育懇談会（6 か所、120 人）、教育懇談会の実施概要及び教育委員会会議の会議録のホームページでの公開

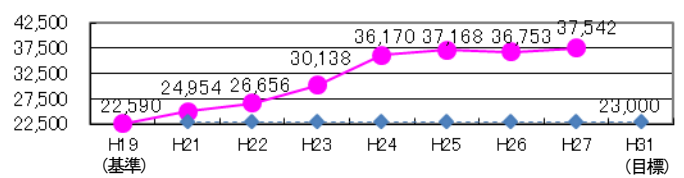
○ 成果指標の推移

※実線は実績値。点線は目標値。

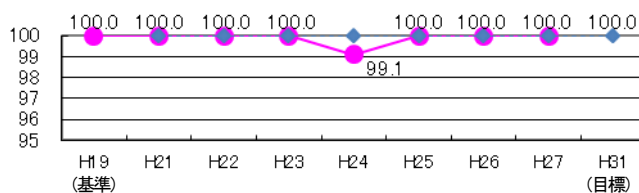
① 個別目標 1－1：知識・技能の習得



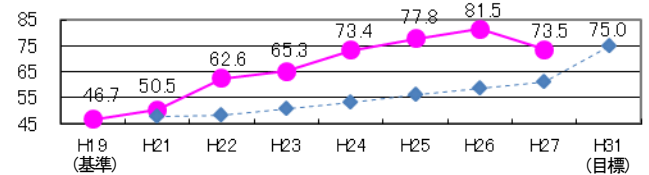
参考図1. 標準学力検査の目標基準到達観点数 (観点)



参考図2. 帯広市教育委員会が開催する講座等の参加者数 (人)

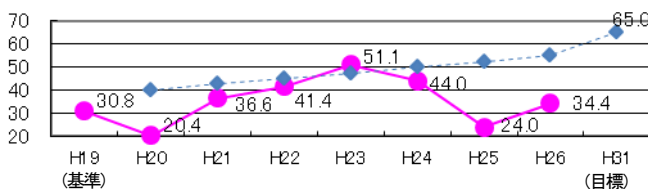


参考図3. 帯広南商業高等学校の就職率 (%)

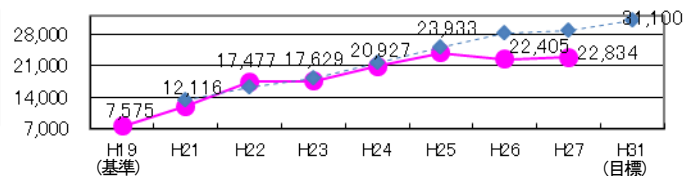


参考図4. 帯広南商業高等学校における検定の3種目以上1級取得率 (%)

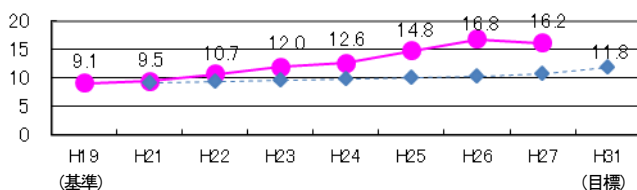
② 個別目標 1－2：豊かな心の育成



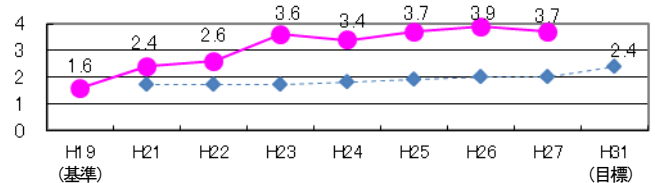
参考図5. 不登校生徒の復帰率 (%)



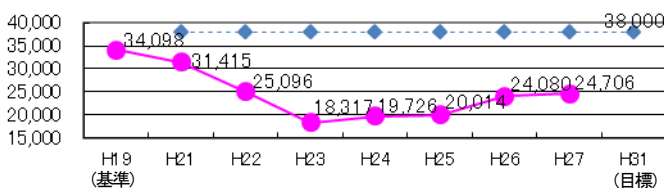
参考図6. 子どもの居場所づくり参加児童数 (人)



参考図7. 小学校図書館の児童1人当り貸出冊数 (冊)



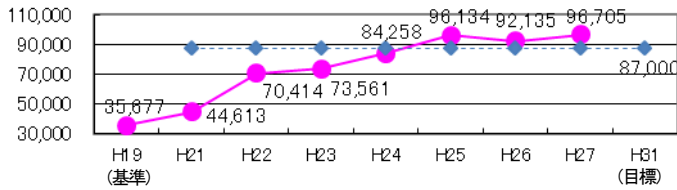
参考図8. 中学校図書館の生徒1人当り貸出冊数 (冊)



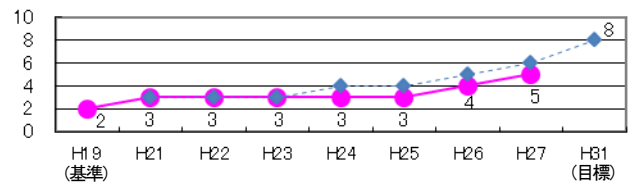
参考図9. 鑑賞事業の入場者数 (人)

※実線は実績値。点線は目標値。

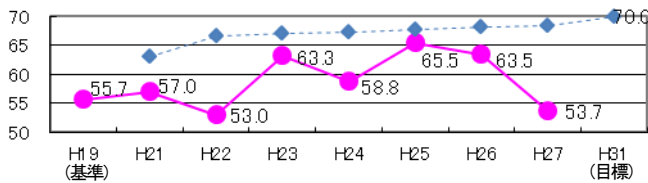
③ 個別目標１－３：健やかな体づくり



参考図10. スポーツ大会、スポーツ教室・講習会の参加者数（人）

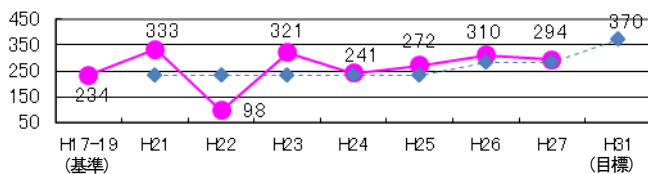


参考図11. 総合型地域スポーツクラブ設置数（カ所）

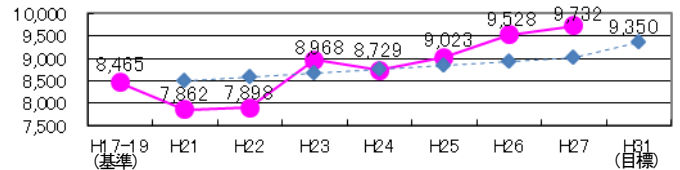


参考図12. 学校給食における地場産野菜の導入率（％）

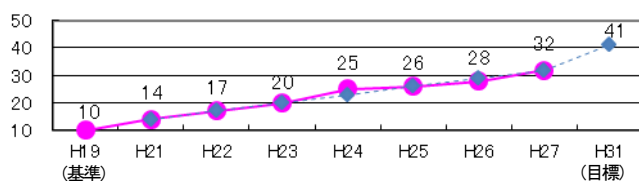
④ 個別目標１－４：人間を尊重し自然と共生する人づくり



参考図13. UDに関する講座等への参加者数（人）

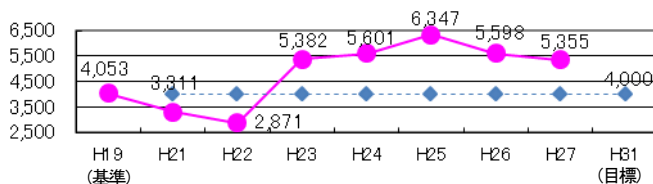


参考図14. 国際理解推進事業・国際交流事業の参加者数（人）



参考図15. 環境にやさしい活動実践校数（校）

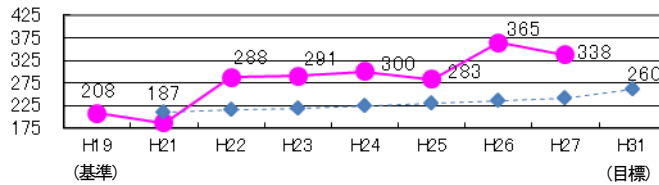
⑤ 個別目標２－１：ふるさとの理解の促進



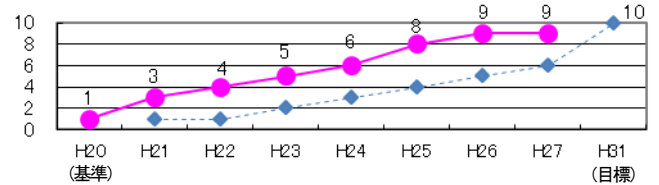
参考図16. 地域について学ぶ講座等への参加者数（人）

※実線は実績値。点線は目標値。

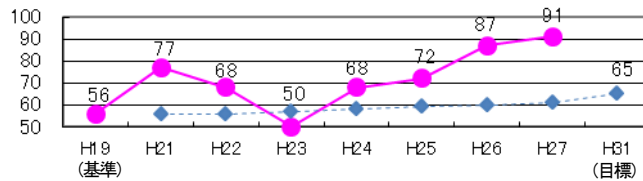
⑥ 個別目標２－２：きずなづくり・まちづくり



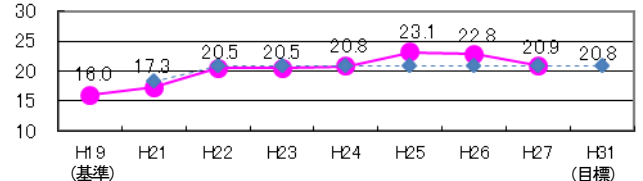
参考図 17. 青少年リーダー養成事業参加者数 (人)



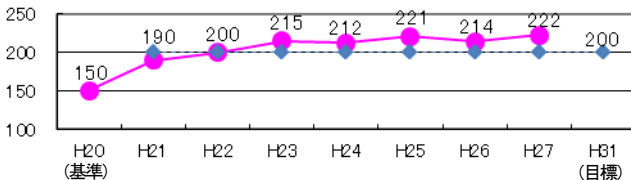
参考図 18. 学習成果の活用事例数 (件)



参考図 19. 発表・活動の場への参加団体数 (団体)

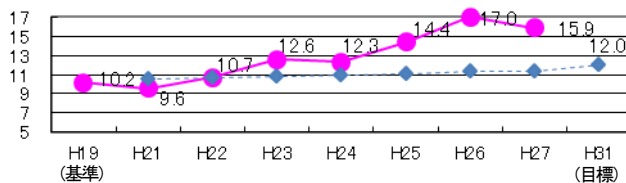


参考図 20. 各種スポーツ大会の観客数 (万人)

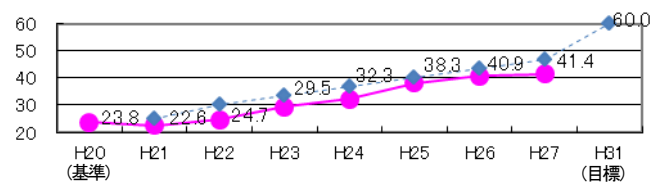


参考図 21. スポーツ合宿団体数 (団体)

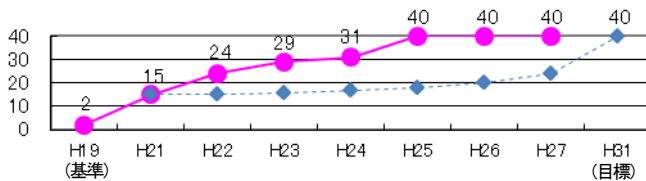
⑦ 基本方向１：学校・家庭・地域の連携



参考図 22. 子ども１人当たりの子育て支援センター等の利用回数 (回)



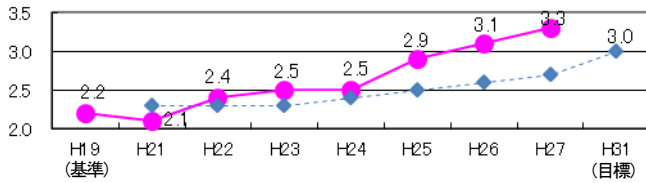
参考図 23. 子育てメール通信の利用率 (%)



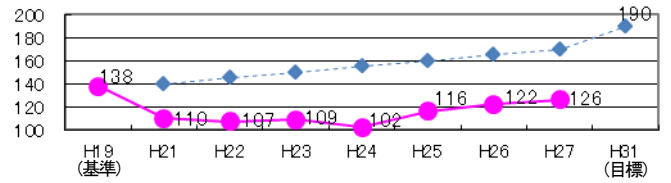
参考図 24. 学校支援ボランティアを活用した学校数 (校)

※実線は実績値。点線は目標値。

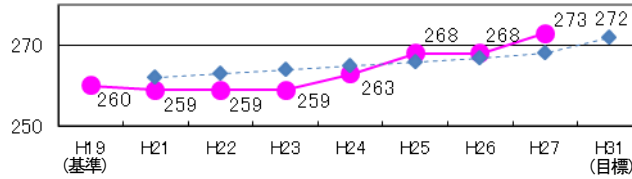
⑧ 基本方向2：教育を支える人材の育成



参考図25. 教職員1人当たりの研修受講回数（回）

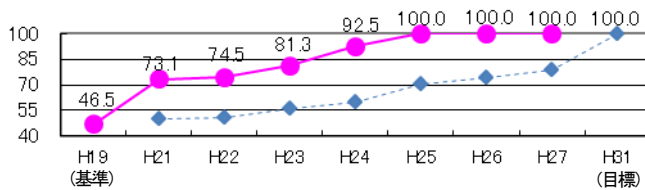


参考図26. 地域の指導者の登録者数（人）

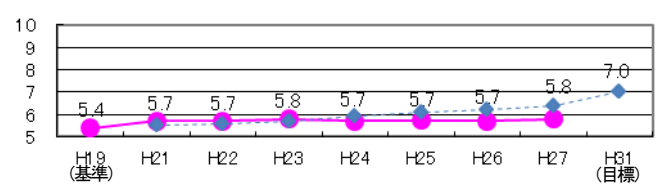


参考図27. ホームページで芸術・文化活動を
紹介する文化団体数（団体）

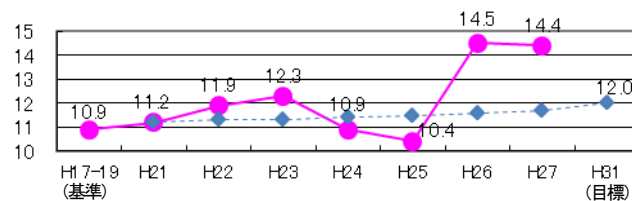
⑨ 基本方向3：教育環境の充実



参考図28. 小・中学校校舎の耐震化率（%）

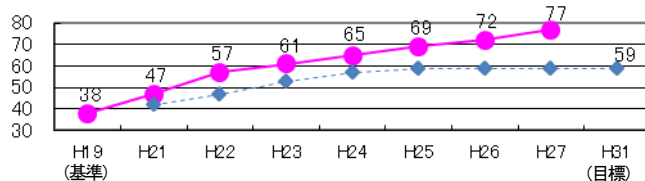


参考図29. 市民1人当たりの図書等の貸出点数
（点）



参考図30. 児童会館の入館者数（万人）

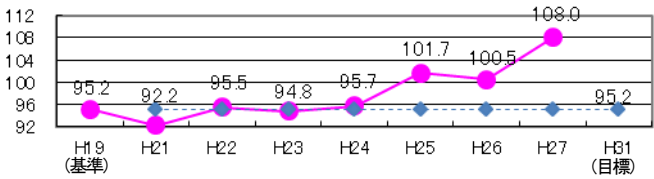
⑩ 基本方向4：教育機会の確保



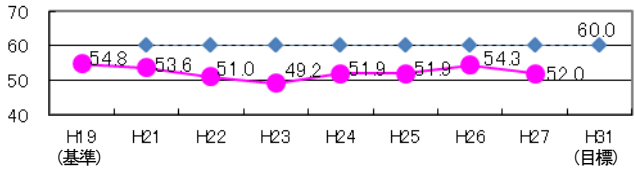
参考図31. 特別支援学級の設置数（学級）

※実線は実績値。点線は目標値。

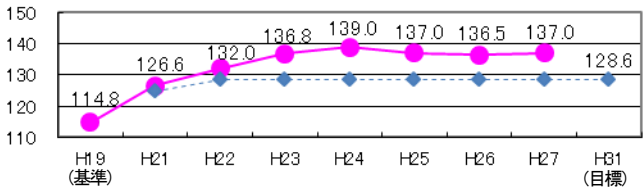
⑪ 基本方向5：よりよい教育のためのしくみづくり



参考図32. 社会教育施設の総利用者数 (万人)



参考図33. 文化施設の利用者数 (万人)



参考図34. スポーツ施設の利用者数 (万人)

○ 課題及び今後の方向性に対する平成27年度の取組み

(1) 次代を担う人づくり

① 知識・技能の習得

展 開 方 策	昨年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成27年度の取組み
子どもの学力・学習意欲を高める教育の推進	○基礎学力の定着が十分ではないと考えられるため、学校・家庭・地域が一体となった取組みの充実を図る	○各小中学校で家庭学習の手引きの配付。長期休業中の補習授業を学校と地域が連携して実施
個人や社会のニーズに応じた学習活動の推進	○多様化する学習要望に幅広く対応するため、新たな講座等の開発に取り組む	○講座ごとに受講者層を意識した内容の企画や開講時間の設定、託児の受入れ等により、提供する講座の選択肢の拡大
職業に関する教育・学習活動の推進	○帯広南商業高校において、引き続き教養ある豊かな産業人の育成に努める	○インターンシップ事業や地域事業者によるビジネス基礎講座の実施。最新のシステムを活用した実践的な授業の実施
高度情報化に対応した教育・学習活動の推進	○教育用コンピュータ機器類の計画的な更新等を図る	○教育現場からの声を聞きながら、効果的なICT機器のあり方や利活用手法を検討

② 豊かな心の育成

展 開 方 策	昨年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成27年度の取組み
子どもの社会性の育成	○不登校の原因多様化により、学校復帰が図られないケースが多いため、一人ひとりに応じた教育相談体制の強化に努める ○子どもの居場所づくりでは、コーディネーター不足などによる事業実施回数減少から、参加児童数が減少しているため、担い手の確保・養成を図る	○不登校に対する、他機関と連携した相談・支援体制の充実。生徒指導アドバイザーのきめ細やかな対応、家庭訪問等の実施 ○学校とボランティア団体の連携を深め、スムーズな事業運営を図るとともに、広く地域住民がボランティアスタッフとして参加できる環境づくりの実施
豊かな情操の育成と生きがいづくり	○学校図書館の蔵書整備及び運営に係る担い手の確保・専門性向上を図り、より活用しやすい学校図書館づくりを進める ○芸術・文化情報が市民に十分に行き	○蔵書の整備。学校図書ボランティア等を中心とした読み聞かせや朝読書、学校図書館の土曜開放の実施。市立図書館による「ぶっくーる便」や「学校図書館クリニック」の実施。学校図書

	届いていないため、各コミュニティ等を通じた情報発信を検討する	館担当者向けのスキルアップ研修会の開催 ○鑑賞機会の増加につながるよう、関係団体等と連携した事業の実施
--	--------------------------------	--

③ 健やかな体づくり

展 開 方 策	昨年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成 27 年度の実施
健やかな体を育むスポーツ活動等の推進	○スポーツ少年団登録団員数が微減傾向のため、各家庭に情報提供し、団員増加を図る	○広域スポーツ活動を実施している少年団活動について情報提供
食育の推進と学校給食の充実	○児童生徒の生活リズム・食生活への関心等に課題があるため、食に関する指導の一層の充実を図る ○地場産野菜の生産・収穫が気候変動に左右されたことで、学校給食における導入率は目標値を下回ったが、引き続き導入拡大に取り組む ○学校給食センターの稼働にあわせ、新メニューの導入など給食の質の向上に取り組む	○食育啓発リーフレット、食育レシピ集、「帯広らしい食育プログラム（中学校版）」の作成・配付。給食だよりや食育通信の配布による家庭への啓発 ○学校給食での帯広産小麦 100%のパンと麺の提供（平成 27 年 4 月から）。瑞穂期における地場産冷凍野菜など、地場産野菜の導入拡大 ○学校給食で、和え物やサラダなど 1 品多く提供できるようになったことから、市民のアイデアも取り入れながら、多くの新メニューを提供

④ 人間を尊重し自然と共生する人づくり

展 開 方 策	昨年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成 27 年度の実施
人権・福祉・男女共同参画に関する教育・学習活動の推進	○性別による固定的な役割分担意識が残っているため、男女平等意識の定着・浸透を図る	○「おびひろ女性活躍推進フォーラム」の開催。情報誌「カスタネット」の発行による、男女共同参画にかかる情報の発信。身の回りで感じている男女差別や男女共同参画を詠んだ「女と男の一行詩」の募集・展示
グローバル化に対応した教育・学習活動の推進	○エリア・ファミリーを考慮した外国語指導講師の学校派遣で、小中学校が連携して外国語指導を行えるよう、派遣体制の充実を図る ○長期休業中に小学生を対象にした「Obihiro サマーイングリッシュ」等を引き続き開催し、外国語への興味・	○中学校外国語へのスムーズな移行を図るため、エリア・ファミリーを意識して外国語指導講師を派遣 ○「Obihiro サマーイングリッシュ」等を 7 校で開催。長期休業中、外国語指導講師を中学校の要請に応じて派遣

	関心を高める	
環境に関する教育・学習活動の推進	○環境教育プログラム集などで、引き続き環境教育情報を発信し、学校や社会教育施設等が連携した環境教育を推進する	○環境にやさしい活動実践校の4校増やプログラム集、ホームページなどによる情報発信の継続 ○社会教育施設等での環境教育の実施

(2) ともに学びきずなを育む地域づくり

① ふるさとの理解の促進

展 開 方 策	昨年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成27年度の実施
子どものふるさと教育の推進	○小中学校で行っている体験活動等のプログラムの見直しなどを検討する ○百年記念館での、教材更新等に取り組む	○学習指導要領改訂にともなう見直し・検討の継続 ○アイヌ文化を紹介する出前講座の実施
地域に関する学習活動の推進	○市民大学講座、百年記念館博物館講座などを引き続き行い、地域への理解を深める機会を提供する ○新規受講者を呼び込むため、学習活動のより効果的な周知に取り組む	○市民大学講座で、地域の歴史や特性を知る講座のほか、地域づくりに役立つ講座の開催。百年記念館で博物館講座の継続実施 ○チラシ配置箇所の拡大。他課・関係団体が発信する SNS やメールマガジンの活用による周知

② きずなづくり・まちづくり

展 開 方 策	昨年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成27年度の実施
まちづくりへの参画を促進する教育・学習活動の推進	○青少年育成団体スタッフの担い手育成・発掘のため、活動内容を積極的に周知し、学校等の協力を得ながら人材確保に努める ○社会教育施設において、講座等の受講後のボランティア活動に繋がるように、活動の場を今後も提供する	○青少年育成団体の活動等について広く市民に周知を図るとともに、協力者が活動に参加しやすい体制づくりの実施 ○百年記念館の講座受講者によるボランティア活動の実施
にぎわいや交流を促進する文化・スポーツの振興	○芸術文化に関わる活動団体の活動規模を一定程度維持し、活動成果の発表を行うことができるよう、合同練習・発表などの情報交換・収集ができる機会について検討する	○文化団体への発表の場や参加の周知

(3) 基本目標を実現するための基盤づくり

① 学校・家庭・地域の連携

展 開 方 策	昨年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成27年度の実施
開かれた学校づくり	○学校評議員研修会等の内容を充実させ、各学校の評議員の交流や情報交換の機会を設ける	○学校評議員研修会の内容検討と評議員通信の発行を年2回から年3回へ変更
家庭教育への支援	○子育てメールの利便性について、母子健康手帳交付時などの機会を利用して周知を図り、利用増につなげる	○母子健康手帳交付時、赤ちゃん訪問や乳幼児健診時に子育て事業の情報提供により、子育てメールの登録促進
家庭や地域による教育支援の推進	○学校支援地域本部のボランティア等の人材確保と高齢化等が課題であるため、人材発掘、活動内容の充実に努める	○コーディネーターやボランティアのスキルアップに関する研修会の開催や紹介。事業交流会などの開催

② 教育を支える人材の育成

展 開 方 策	昨年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成27年度の実施
教員の人間力・指導力の向上	○教員の指導力の向上を図るため、ニーズに応えた研修の場を確保する ○クラウド型サーバーシステムによる教材の効果的活用により、指導力の向上に努める	○教職員が自ら積極的に参加するような研修の実施 ○これまで作成した教材をいつでも閲覧・活用できるよう、クラウド型サーバーシステムの周知
地域人材の発掘・育成・活用	○地域の指導者に登録されている人材の活用と周知を図るとともに、新たな人材発掘に努め、新規登録者増に取り組む	○生涯学習推進委員会において登録指導者の周知。所管事業の講師への呼びかけや庁内他課の人材登録者制度との連携による新たな人材の発掘

③ 教育環境の充実

展 開 方 策	昨年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成27年度の実施
学校教育の環境整備	○学校施設の長寿命化計画策定に向けて調査・検討を進める ○老朽化が深刻な学校施設の抜本的な改善を検討する	○長寿命化計画について、国や道、他都市の動向など、引き続き情報収集 ○ボイラー設備の更新、校舎屋上防水改修など、メンテナンスサイクルに基づいた計画的な予防保全の推進
社会教育の環境整備	○図書館での市民1人当りの図書等の貸出点数を増やすため、今後もPRや多様な講座・講演会を開催する ○社会教育施設の老朽化に対応するた	○広報や新聞での推薦図書の紹介。大人向けおはなし会の開催。期間限定の家読ノートの実施 ○社会教育施設における計画的な施

	め、計画的な修繕や更新に努める ○新たな総合体育館の整備は、PFI 方式により推進	設・設備修繕等の老朽化対策や展示物の充実 ○実施方針、要求水準書（案）の作成
保育・体験活動の環境整備	○「帯広市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、児童保育センターの整備・耐震化等を進める	○緑ヶ丘児童保育センター実施設計。児童保育センターの受入枠拡大等のため、学校内の余裕教室などの活用

④ 教育機会の確保

展 開 方 策	昨年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成 27 年度の取組み
就学・進学支援	○家庭の経済的負担を軽減するため、就学援助費の支給等を継続する ○高等学校の間口の確保を図るため、情報収集や陳情活動を継続する	○生活保護基準の引き下げによる影響が生じないように、引き下げ前の基準を適用して、就学援助費を支給。私立高校の授業料補助を実施 ○「帯広市高等学校間口対策協議会」を中心とした情報収集や要望活動の継続
健やかな発達の支援	○特別な配慮を必要とする児童生徒に、適切な支援を通じて必要な教育・指導を行うため、多様で柔軟な仕組みや環境整備など、教育環境の充実に努める	○特別支援教育補助員の増員（2 人）。知的学級（4 校）、自閉症・情緒学級（1 校）の開設

⑤ よりよい教育のためのしくみづくり

展 開 方 策	昨年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成 27 年度の取組み
魅力ある学校づくりの推進	○教育課程との関連や継続性を考慮しながら、これまで以上に地域と連携した特色ある学校の取組みを進める	○学校支援地域本部事業やこども学校応援地域基金プロジェクトを活用した、地域と連携した夏祭りなどの実施
学校教育のしくみの工夫改善	○「帯広市エリア・ファミリー構想」を浸透させ、9 年間を見通した小中連携の実効性ある方策を積み重ねていく	○エリアごとにエリア会議の開催。「エリアの日」の設定。周知用リーフレットの配布
社会教育施設の利用の促進	○文化施設の利用者数が目標値を下回ったことは、団体の小規模化の影響によるため、個々の団体の活動規模を一定程度確保するための取組みを検討する	○ホームページやSNS等を使用した情報発信の充実
地域の実情に応じた教育行政の推進	○教育関係団体等との懇談会の開催を検討する	○教育関係団体との意見交換会を開催（1 回）